

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type - SA • User's Manual

オフィスシリーズ Type - SA

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。

ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

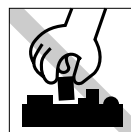
注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

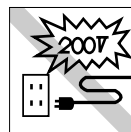
煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



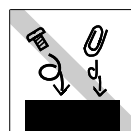
表示されている電源(交流100V)以外では使用しないでください。
指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



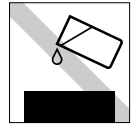
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンター
または修理センターにご相談ください。

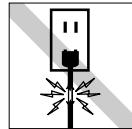


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

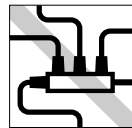
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談
ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

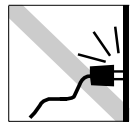
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくだ
さい。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

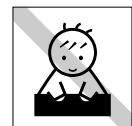
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



⚠ 注意

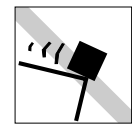
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



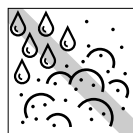
不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



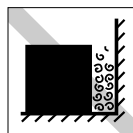
⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

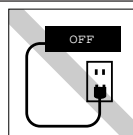


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。

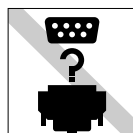
- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・じゅうたんや布団の上
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



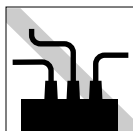
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。



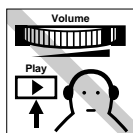
拡張カードの装着、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状が、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってこれらのディスプレイを接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータに拡張カードを装着して機能を拡張する方法について説明します。

BIOSの設定

「BIOS Setupユーティリティ」を使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法や仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (7)

製品保護上の注意 (9)

使用・保管時の注意	(9)
記録メディア	(10)
マウス	(11)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	2
ご使用前の確認事項	2
コンピュータを使い始めるまでの手順 ..	3
システムの特長	4
添付ソフトウェアの概要	5

各部の名称と働き 9

コンピュータの設置 11

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 15

電源を入れる前に	15
電源の入れ方とWindowsの起動	17
Windows使用時の確認事項	18

WindowsMeインストールモデルの セットアップ 21

WindowsMeのセットアップ	21
セットアップ終了後の作業	22
WindowsMe起動ディスクの作成	23

Windows98インストールモデルの セットアップ 24

Windows98のセットアップ	24
セットアップ終了後の作業	26
Windows98起動ディスクの作成	27

Windows2000インストールモデルの セットアップ 28

Windows2000のセットアップ	28
セットアップ終了後の作業	30
セットアップブートディスクの作成	31

WindowsNT4.0インストールモデルの セットアップ 33

WindowsNT4.0のセットアップ	33
ネットワークドライバのインストール	35
Service Pack6aのインストール	36
セットアップ終了後の作業	37

バックアップディスクの作成 38

バックアップディスクの役割	38
バックアップFD作成ユーティリティの実行 ...	38
バックアップディスクの作成	39

電源の切り方 40

WindowsMeの終了と電源の切り方 ..	40
Windows98の終了と電源の切り方 ...	41
Windows2000の終了と電源の切り方 ...	41
WindowsNT4.0の終了と電源の切り方	42
リセット	43

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 46

キーの種類と役割	46
----------------	----

マウスを使う 50

マウスの操作	50
マウスの設定変更	50

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う 51

FDのセットと取り出し	52
FDのフォーマット	53
データのバックアップ	54
ライトプロテクト (書き込み禁止) ..	54
1.25MBのFDを使用する	55

HDD (ハードディスクドライブ) を使う 56

データのバックアップ	57
購入時のHDD領域について	57

CD-ROMドライブを使う 58

CD-ROMのセットと取り出し	58
強制的なCD-ROMの取り出し	59

解像度や表示色を変更する 60

WindowsMeの場合	61
Windows98の場合	63
Windows2000の場合	65
WindowsNT4.0の場合	67

省電力機能 68

省電力機能の種類	68
実行方法	70
復帰方法	71

その他の機能 72

サウンド機能	72
ネットワーク機能	72
パラレルコネクタ	73
シリアルコネクタ	73
USBコネクタ	73
DFPコネクタ	74
コンピュータウィルスの検索・駆除	74

システムの拡張

拡張できる装置 76

作業時の注意 77

本体カバーの取り外し・取り付け 78

本体カバーの取り外し・取り付け .. 78

拡張カードの装着 80

拡張スロットの仕様 80 |

拡張カードの取り外し・取り付け .. 81 |

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に 86

BIOS Setupユーティリティの操作 87

BIOS Setupユーティリティの起動	87
BIOS Setupユーティリティの操作	87
設定値をもとに戻すには	89
BIOS Setupユーティリティの終了	90

BIOS Setupユーティリティの設定項目 91

Mainメニュー画面	91
Passwordの設定	93
Advancedメニュー画面	95
Powerメニュー画面	97
Bootメニュー画面	99
Exitメニュー画面	100
BIOSの設定値	101

こんなときは

困ったときに 106

コンピュータ本体の不具合	106
省電力機能に関する不具合	108
キーボードの不具合	109
マウスの不具合	110
ディスプレイの不具合	111

FDDの不具合	113
HDDの不具合	114
CD-ROMドライブの不具合	115
アプリケーションソフトの不具合	116
メモリの不具合	117
拡張カード、周辺機器の増設に 関する不具合	117
プリンタの不具合	118
スピーカの不具合	118

警告メッセージが表示されたら	119
-----------------------	-----

付録

お手入れ	122
本機のお手入れ	122
マウスのお手入れ	122

リチウム電池の交換	124
------------------	-----

CMOS RAMの初期化	127
---------------------	-----

HDDを購入時の状態に戻す	129
必要なメディア	129
HDDを購入時の状態に戻す順番 ...	130
HDDを購入時の状態に戻す前の注意 ..	131
リカバリの実行	133
マウสดライバのインストール	134
各種ドライバのインストール	135

HDD領域の変更	136
MS-DOS領域の種類	136
HDD領域の変更	137
既存領域の削除	138
MS-DOS領域の作成	140
MS-DOS領域のフォーマット	143

コンピュータ内部のケーブル接続	144
------------------------	-----

コネクタ仕様	146
機能仕様一覧	149
用語集	150
索引	156

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2

Ctrl

制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載してあります。

参考事項です。


覚えておくとお利便なことを記載してあります。




説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。
この例では、を押したまま を押します。

名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーションシステムに関する記述

本書では、オペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows Me

Microsoft® Windows® Millennium Edition

Windows 98

Microsoft® Windows® 98 Operating system

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows NT 4.0

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating system
Version 4.0

MS-DOS

Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

Windowsの画面表示に関する記載方法


本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

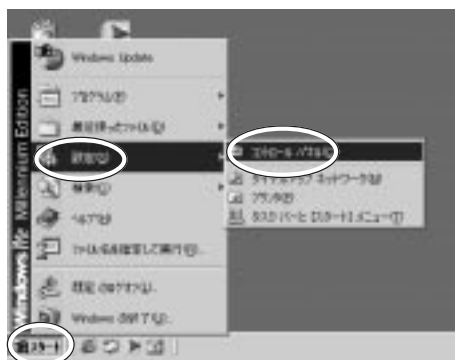


Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] をクリックします。

実際の操作 :  スタート をクリックします。



記載例 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

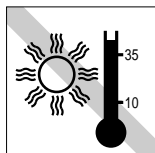
② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

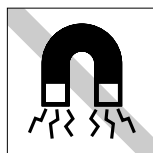
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

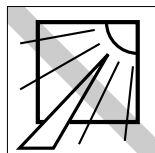
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



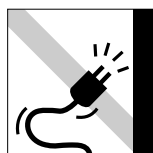
温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



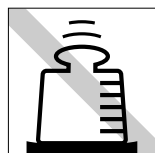
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、フロッピーディスクなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



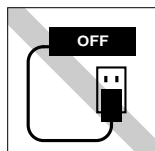
電源ケーブルが抜けやすい所（ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。
機材の上に載せられるディスプレイの重さは20kgまでです。



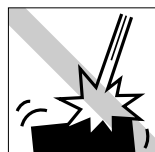
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



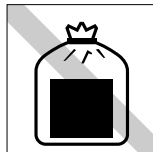
電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源をオフにしても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



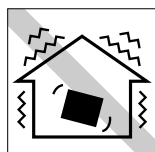
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



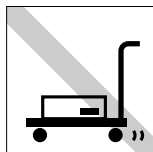
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（ハードディスクドライブ、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



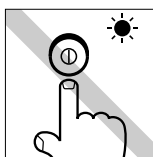
コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。
フロッピーディスク、CD-ROMなどは抜き、配線ケーブルは取り外してください。



アクセスランプ点灯中は、コンピュータの電源スイッチを押したり、リセットしないでください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

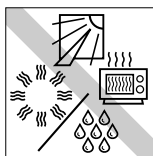
FD

FD

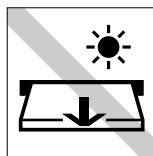
CD-ROM・DVD-ROMなど

CD

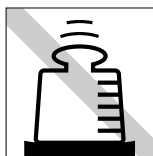
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



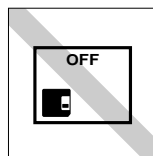
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



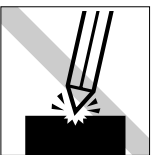
アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源スイッチを押したり、リセットをしないでください。



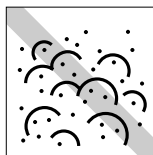
上に物を載せないでください。



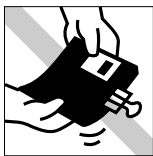
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



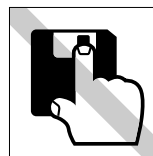
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

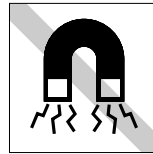


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD

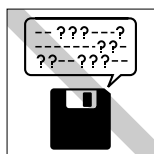


磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

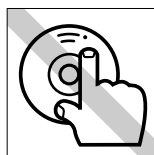


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

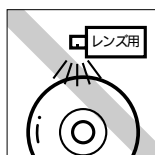
FD



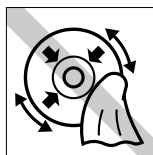
何度も読み書きしたフロッピーディスクは使わないでください。
磨耗したフロッピーディスクを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



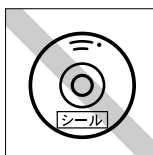
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



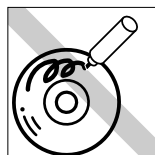
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**



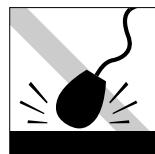
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。 **CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。 **CD**

マウス

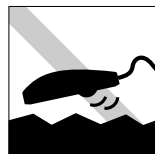
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



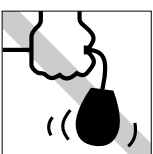
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



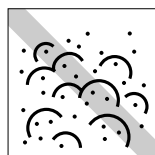
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

ご使用の前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

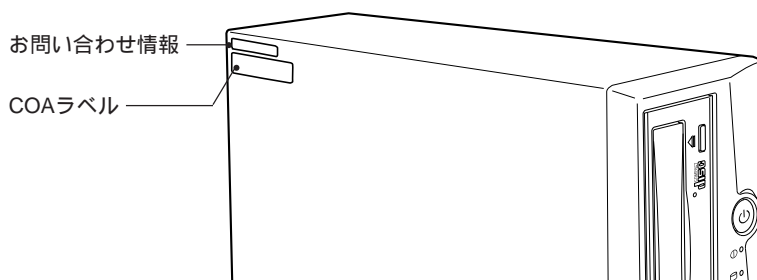
お問い合わせ情報

お問い合わせ情報には、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

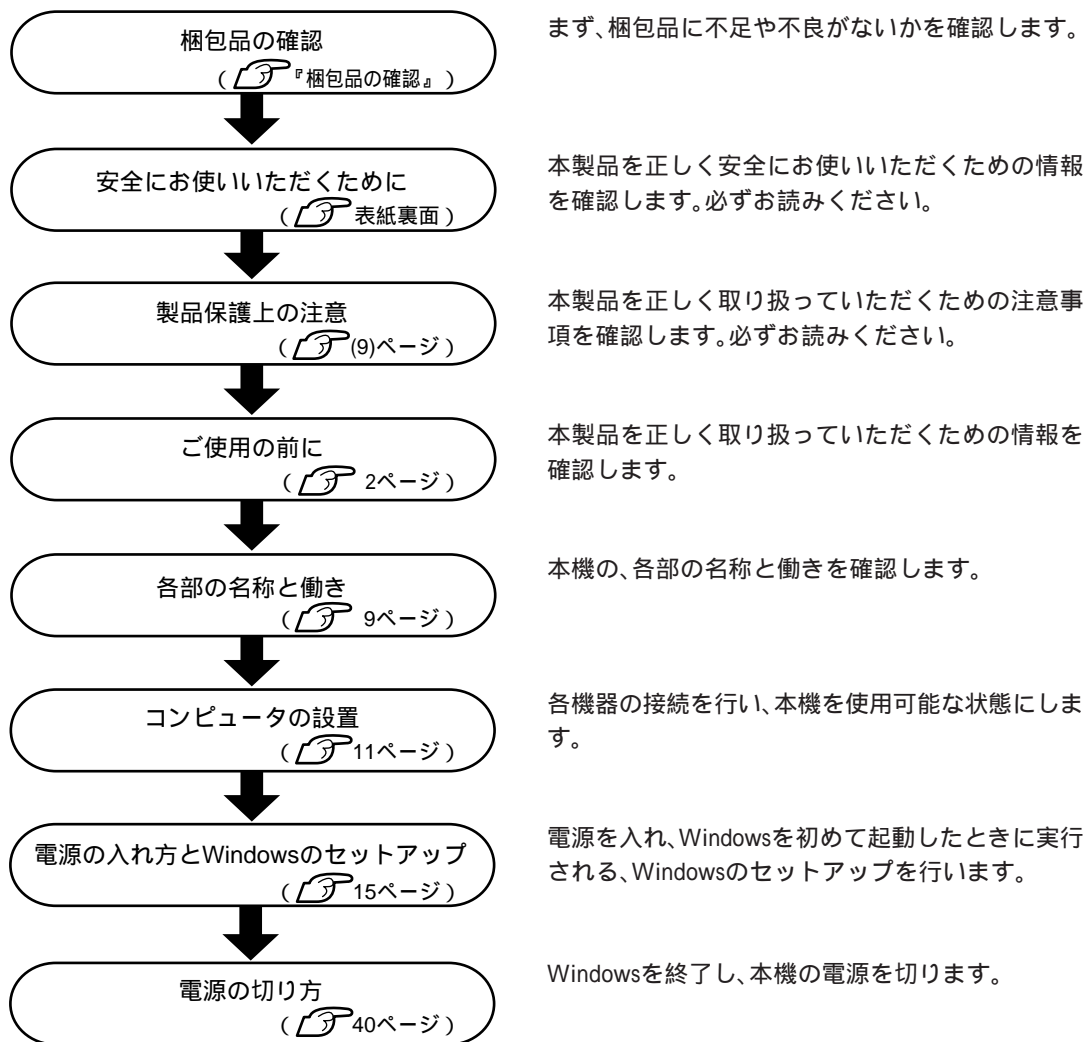
COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



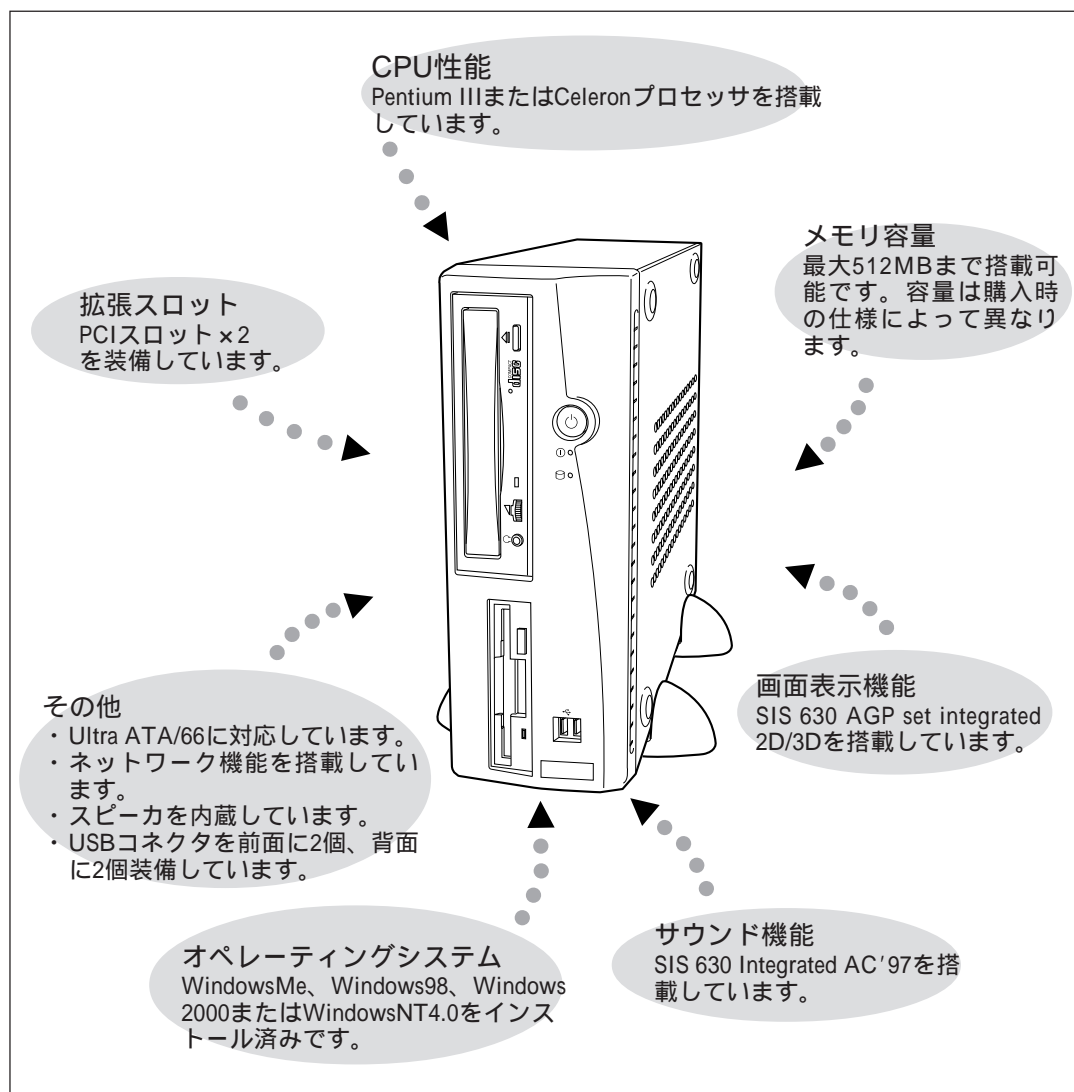
コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。






システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。














添付ソフトウェアの概要






本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時の仕様によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。また、添付状態が異なる場合があります。

記号の見方	
インストール状態	添付状態
 : 内蔵ハードディスクにインストールされています。	 : ディスクが添付されています。
 : インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。	







WindowsMeインストールモデル

WindowsMe Windowsは、最新のものがインストールされています。  『WindowsMeクイックスタートガイド』	
マウスドライバ ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。	
VirusScan for Windows 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド (電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	

Windows98インストールモデル

Windows98 Windowsは、最新のものがインストールされています。 📖『Windows98ファーストステップガイド』	
マウスドライバ ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。	
VirusScan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。 📖『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	

Windows2000インストールモデル

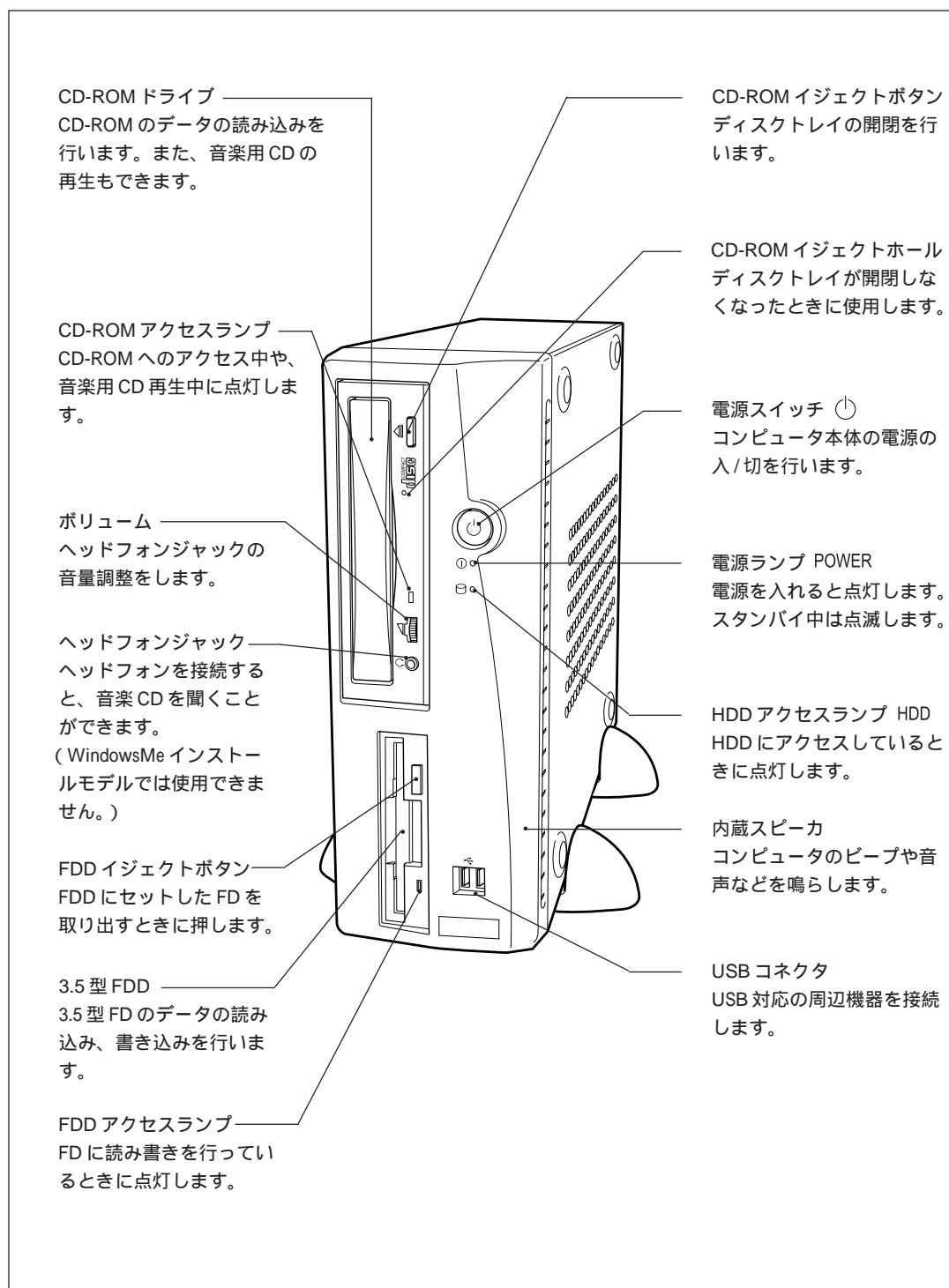
<p>Windows2000</p> <p>Windowsは、最新のものがインストールされています。</p> <p>📖『Windows2000クイックスタートガイド』</p>	
<p>マウスドライバ</p> <p>ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>ディスプレイドライバ</p> <p>Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>サウンドドライバ</p> <p>音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>ネットワークドライバ</p> <p>ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>3モードFDDドライバ</p> <p>1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。</p>	
<p>VirusScan for Windows</p> <p>最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。</p> <p>📖『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』</p>	
<p>Adobe Acrobat Reader</p> <p>様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。</p>	
<p>マニュアル(PDFファイル)</p> <p>「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。</p>	

WindowsNT4.0インストールモデル

WindowsNT4.0 WindowsNT4.0は、最新のものがインストールされています。  『WindowsNT4.0ファーストステップガイド』	
マウスドライバ ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。	
VirusScan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	

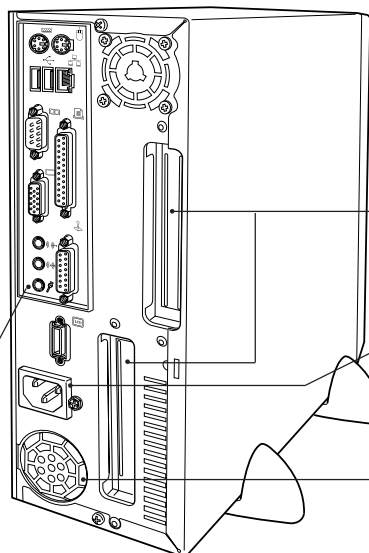
各部の名称と働き

本体前面



本体背面


コネクタ類





拡張スロット
拡張カードを装着します。


電源コネクタ
添付の電源コードを接続して電気を供給します。


冷却ファン
内部で発生する熱を逃がします。


シリアルコネクタ ¹
モデムなど、RS-232C インタフェースに対応した機器を接続します。


VGA (モニタ) コネクタ 
ディスプレイを接続します。


ライン出力コネクタ 
アンプ内蔵スピーカやヘッドフォンなどを接続します。


ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオーディオ機器の出力信号線を接続します。


マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。


DFP コネクタ 
デジタル方式のディスプレイを接続します。


キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。

マウスコネクタ 
マウスを接続します。

ネットワークコネクタ 
ローカルエリアネットワーク接続用のコネクタです。

USB コネクタ 
USB 対応の周辺機器を接続します。

パラレルコネクタ 
プリンタや、スキャナなどを接続します。

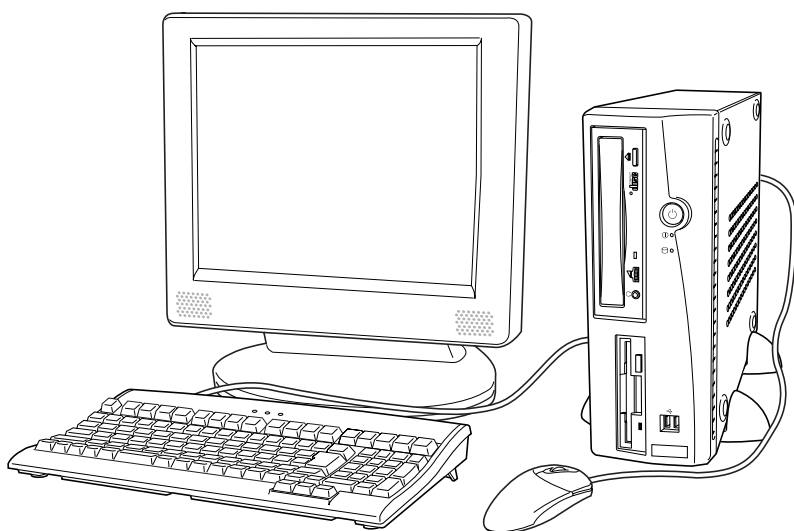
ゲームポート / MIDI コネクタ 
ジョイスティックなどを接続します。

日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってこれらのディスプレイを接続しないように注意してください。
VGA (モニタ) コネクタとDFPコネクタを同時に使用することはできません。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
 - ・じゅうたんや布団の上
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



注意

- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

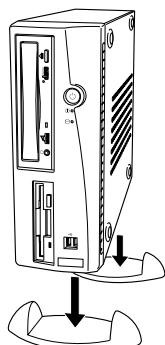
設 置

1

本体に縦置きスタンドをセットします。

本機を横置きで使用する場合はこの作業は必要ありません。

- ① 電源スイッチ側を上にして、縦置き用スタンドにセットします。
- ② 本体が安定するようにスタンドの位置を調節します。

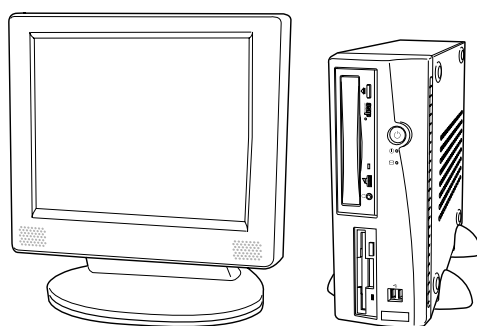


制限

本機を縦置きで使用する場合は、必ず電源スイッチ側を上にして設置してください。電源スイッチ側を下にして設置すると、コンピュータが正常に動作しない場合があります。

2

コンピュータとディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。



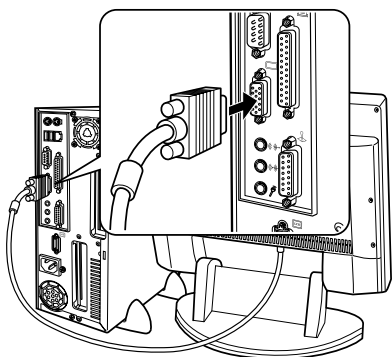
制限

本機を横置きで使用する場合、本機の上に載せられるディスプレイの重さは20kgまでです。それ以上の重さのディスプレイは載せないでください。

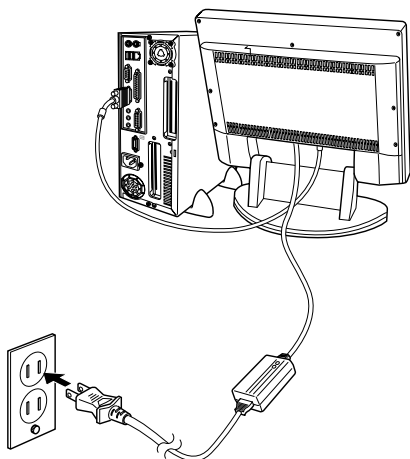
ディスプレイの接続

以下では、一般的なアナログ方式のディスプレイの接続方法について説明しています。
ディスプレイの接続方法と注意事項については、ご使用になるディスプレイに添付のマニュアルに従ってください。

- 3** ディスプレイの接続コードを、本機背面のモニタコネクタに接続します。

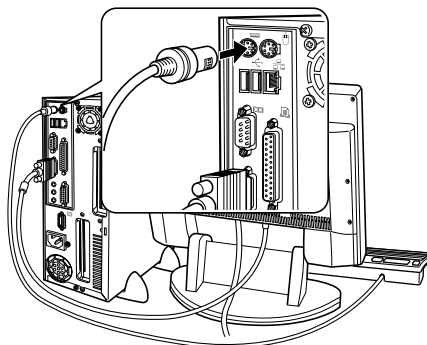


- 4** ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



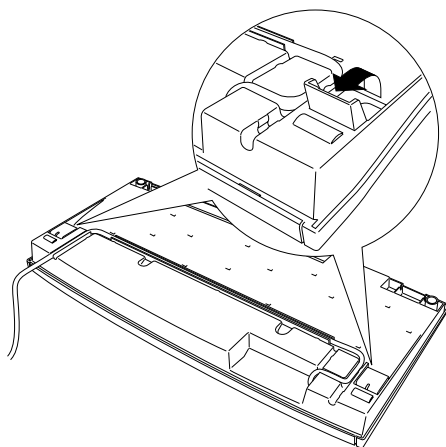
キーボードの接続

- 5** コネクタについているアイコンのイラストを下図と同じ方向に向けて、本機のキーボードコネクタに差し込みます。



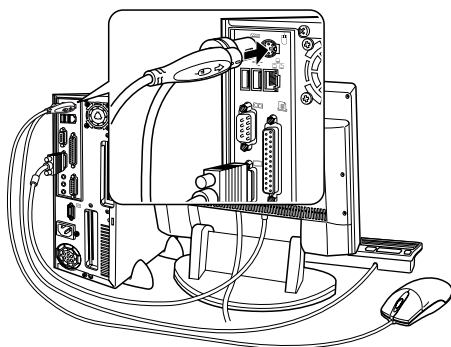
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こす。
- キーボードコードを、左右どちらかの底面の溝から引き出します。



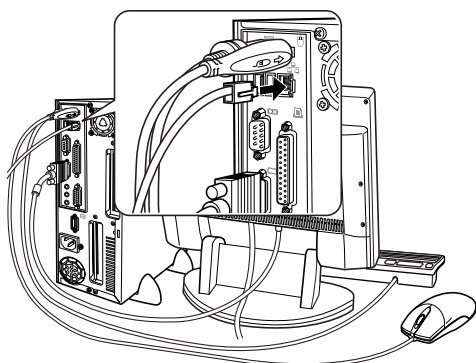
マウスの接続

- 6** コネクタの矢印を下図の方向に向けて、本機のマウスコネクタに差し込みます。



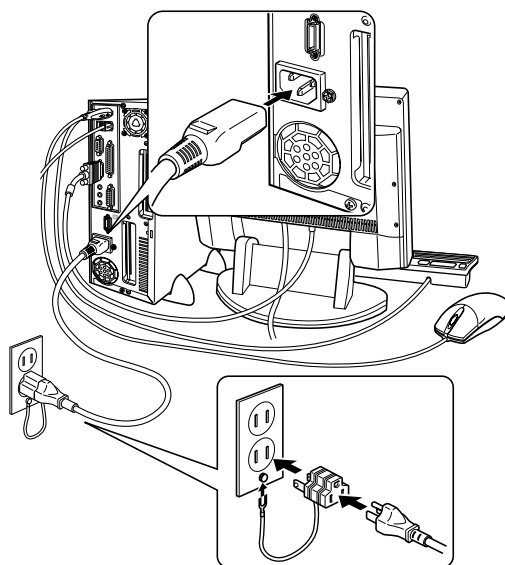
ネットワークへの接続

- 7** ネットワーク用ケーブルをネットワークのコネクタに接続します。
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



電源コードの接続

- 8** 家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。
アース端子がついているコンセントの場合は、電源コードのアース線を接続してください。



これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

電源を入れる前に

Windowsの セットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windowsの起動後、自動的に「Windowsセットアップ」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

バックアップ ディスクについて

FAXモデムなどの拡張カードを装着した仕様で本機を購入された場合は、バックアップディスクを作成する必要があります。バックアップディスクを作成しないとソフトウェアを再インストールすることができなくなります。必ず作成してください。



制限

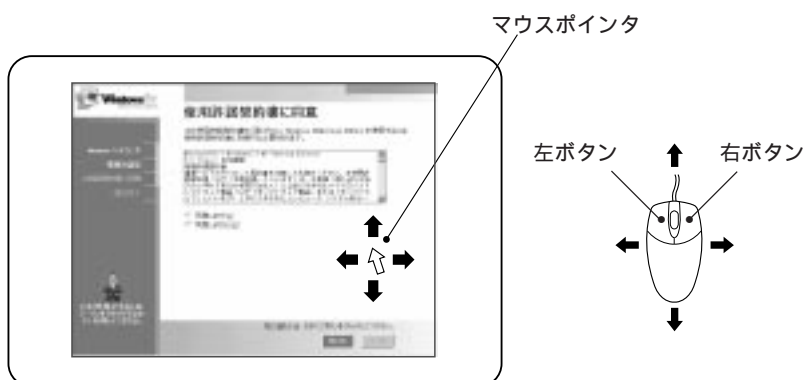
Windowsのセットアップを行う前や、バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしないでください。バックアップディスクを作成することができなくなります。

マウスの使い方

Windowsのセットアップの操作は、マウスで行います。
以降の作業に必要なマウスの基本操作を説明します。

1


Windowsの画面では、次のようにマウスポインタが表示されます。マウスを机の上で前後左右に動かすと、動かした方向にマウスポインタが移動します。



2

画面に操作を選択するボタンなどが表示されています。

これから行いたい操作のボタン上にマウスポインタの先端を合わせます。マウスポインタを合わせたらマウスの左ボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで、操作が選択され、実行します。以降このように左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

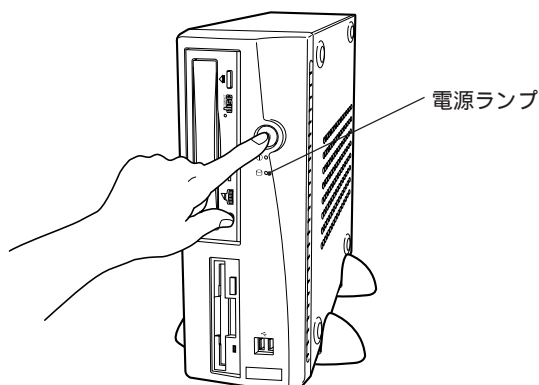
 p.50「マウスを使う」

電源の入れ方とWindowsの起動

本体の電源の入れ方は、次のとおりです。

初めて
電源を入れる

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本体の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 3 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けてWindowsのセットアップを行います。

WindowsMeインストールモデル

 p.21 「WindowsMeインストールモデルのセットアップ」


Windows98インストールモデル

 p.24 「Windows98インストールモデルのセットアップ」

Windows2000インストールモデル

 p.28 「Windows2000インストールモデルのセットアップ」

WindowsNT4.0インストールモデル

 p.33 「WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ」

2回目以降に 電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源スイッチを押す。
省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意してください。

 p.68「省電力機能」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源スイッチを押す。
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

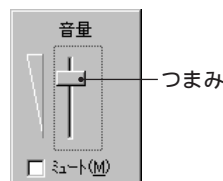
Windows使用時の確認事項

Windowsのセットアップが終了するとWindowsが使用できる状態になります。また、次回より電源を入れると起動後すぐにWindowsが使用できます。Windowsの使用方法是、Windowsに添付の『クイックスタートガイド』(Windows98/WindowsNT4.0は、『ファーストステップガイド』)や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。Windows使用時の確認事項や設定事項は、次のとおりです。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には、次のように音量を調節します。


画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



ボリュームコントロール

省電力機能

WindowsMe/Windows98/Windows2000インストールモデルでは、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合マウス、キーボードの操作でもとに戻ります。

 p.68「省電力機能」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMe/Windows98 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000/WindowsNT4.0 : C:\¥I386¥Iはアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは、次のように設定されています。

	ドライブ	ファイルシステム
Windows Me インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 98 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 2000 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows NT4.0 インストールモデル	先頭の 2GB (Cドライブ) 残りの領域	FAT16 未設定

WindowsNT4.0の領域設定

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GBに基本MS-DOS領域(Cドライブ)を作成しWindowsをインストールします。このシステム領域を2GB以上に拡張することはできません。また、WindowsNT4.0の未設定領域は、このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」



Cドライブがデータでいっぱいになったら

WindowsNT4.0インストールモデルのCドライブ(2GB)がデータでいっぱいになり容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたはそれ以降のドライブに移動すると空き領域を作成できます。

コントロールパネル 購入後は初めて「コントロールパネル」を開くと、左側の画面が表示されます。この表示は、よく使うアイコンのみを表示しています。マニュアル中に記載されている各種設定を行うときに、必要なアイコンが表示されない場合は、画面左側の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。



WindowsMeインストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsMeインストールモデルのセットアップ方法について説明します。

WindowsMeのセットアップ

WindowsMeインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsMeセットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ



セットアップを続行するには、「次へ」をクリックします。

使用許諾契約に同意



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

設定が完了しました



Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。

お知らせの確認



本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[OK]をクリックします。

バックアップディスクの作成

購入時の仕様により表示される画面が異なります。「お使いのコンピュータではバックアップディスクを作成する必要はありません。」と表示された場合は、[OK]をクリックします。ディスク名が表示された場合は、バックアップディスクを作成します。

 p. 38「バックアップディスクの作成」

Windows Meのデスクトップが表示されます。これでWindows Meのセットアップは終了です。
続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。


セットアップ終了後の作業

Windows Meセットアップ終了後に、次の作業が必要です。

Windows Me 起動ディスクの作成 Windows MeがHDDから起動しなくなった場合などに使用するディスクを作成します。必ず作成してください。

 p. 23 「Windows Me起動ディスクの作成」

ネットワークに接続する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。


VirusScan for Windowsのインストール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することが出来ます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。


Windows Me起動ディスクの作成

Windows Me起動ディスクは、Windows MeがHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

Windows Me起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを1枚用意しておきます。

 p.53「FDのフォーマット」

- 1 「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「起動ディスク」タブの「ディスクの作成」をクリックします。
- 3 「ディスクの挿入」画面が表示されたら、FDDにFDをセットして「OK」をクリックします。
- 4 「Windows Me起動ディスク」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.54「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ



日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

Windows98へようこそ



ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後 **[Tab]** を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

Windowsユーザー使用許諾契約書



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

セットアップの完了



Windowsが正常にインストールされました。**[完了]** をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定




「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。設定したら**[閉じる]** をクリックします。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[OK]をクリックします。

バックアップディスクの作成


購入時の仕様により表示される画面が異なります。「お使いのコンピュータではバックアップディスクを作成する必要はありません。」と表示された場合は、[OK]をクリックします。ディスク名が表示された場合は、バックアップディスクを作成します。

 p. 38「バックアップディスクの作成」

2

Windows 98のデスクトップが表示されます。これでWindows 98のセットアップは終了です。

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

 次ページ「セットアップ終了後の作業」


セットアップ終了後の作業

Windows98セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

Windows98起動ディスクの作成 Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用するディスクを作成します。必ず作成してください。

 p.27「Windows98起動ディスクの作成」

ネットワークに接続する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

VirusScan for Windowsのインストール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。
 「VirusScan for Windowsをご使用の前に」

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

Windows 98 起動ディスクの作成

Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。

 p.53「FDのフォーマット」

- 1 「コントロールパネル」-「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「起動ディスク」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 5 「Windows 98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.54「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

Windows2000 インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows2000インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows2000のセットアップ

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。


Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

- 2 Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、Windows2000のデスクトップが表示されます。これでWindows2000のセットアップは終了です。



- 3 バックアップディスクを作成します。
「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行し、バックアップディスクを作成する必要があるかを確認します。作成する必要がある場合は、必ず作成してください。

 p. 38 「バックアップディスクの作成」

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

 次ページ「セットアップ終了後の作業」


セットアップ終了後の作業

Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

セットアップブート ディスクの作成 回復コンソールを実行する場合などに使用する「セットアップブートディスク」を作成します。必ず作成してください。

 p.31「セットアップブートディスクの作成」

ネットワークに接続 する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

VirusScan for Windowsのインストール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。






このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。



制限

未フォーマットFDをフォーマットする場合は、p.53「FDのフォーマット」の記述をご覧ください。

セットアップブートディスクの作成は、次の手順で行います。フォーマット済みのFDを4枚用意しておきます。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のように入力して  を押します。
 CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
 「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
 ① 「C:」と入力して  を押します。
 ② 「CD ¥」と入力して  を押します。
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のように入力して  を押します。
 MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。

5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。
ディスクの作成が始まります。

6 1枚目のディスクの作成が終わったら、画面の指示に従い2～4枚目のディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。



p.54「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

WindowsNT4.0 のセットアップ

Windows NT4.0 インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくするとWindowsNT Workstationの画面が表示され、Windowsが起動します。
- 2 WindowsNT4.0が起動すると、自動的に「WindowsNTセットアップ」が実行されます。
セットアップの流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ソフトウェア使用許諾契約への同意

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

情報の収集

ユーザー情報として、次の項目を入力します。

- ① 名前・組織名
- ② コンピュータ名

を押すと次の欄にポインタが移動します。

WindowsNT4.0のアップデート

「Service Pack6aのセットアップ」が行われ、Windows NT4.0が更新されます。

「Windows NT4.00は正常にインストールされました。」と表示されたら、Windowsを再起動します。再起動時のオペレーティングシステムの選択では、[WindowsNT Workstation Version 4.00]を選択します。

さらに「Windows Update:Internet Explorerとインターネットツール」画面で、Windowsが自動的に再起動します。

NTにログオンする

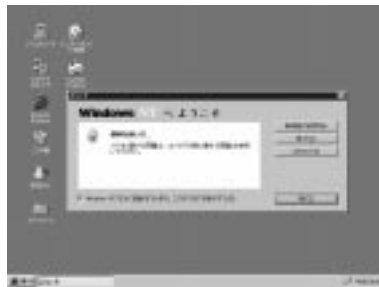
ここで **Ctrl** + **Alt** + **Delete** キーを押し、ログオン情報入力画面が表示されたら、ユーザー名、パスワードには、次のように入力して **OK** をクリックします。

ユーザー名:


パスワード: (何も入力しません。)

これらの設定は、**[スタート]「プログラム」「管理ツール」「ユーザーマネージャ」**または**「WindowsNTのヘルプ」**から変更できます。

- 3 ログオンに成功すると、次の画面が表示されます。これで「WindowsNT4.0のセットアップ」は終了です。



- 4 バックアップディスクを作成します。
「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行し、バックアップディスクを作成する必要があるかを確認します。作成する必要がある場合は、必ず作成してください。

 p. 38「バックアップディスクの作成」

ネットワーク機能を使用しない場合は、続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

 p.37「セットアップ終了後の作業」

- 5 ネットワーク機能を使用する場合は、「ネットワークドライバ」と「Service Pack6a」のインストールが必要です。

本機のHDDには、ネットワークドライバがインストールされていません。ネットワークドライバのインストール時には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

 p.35「ネットワークドライバのインストール」

ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。


- 1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「WindowsNTネットワークがインストールされていません。今すぐインストールしますか?」とメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「ネットワークセットアップウィザード」画面で「このコンピュータをネットワークに参加させる方法を指定してください。」と表示されたら、「ネットワークに接続」にチェックマークが付いている状態で [次へ] をクリックします。
- 6 [一覧から選択] をクリックして、続けて [ディスク使用] をクリックします。
- 7 「D:¥LAN¥NT40」と入力して [OK] をクリックします。
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 8 「OEMオプションの選択」画面で「SiS 900 PCI Fast Ethernet Adapter」を選択して [OK] をクリックします。続けて [次へ] をクリックします。
- 9 以降はネットワーク管理者の指示に従って操作します。
「いくつかのWindowsNTファイルをコピーする必要があります...。」と表示されたら、「C:¥I386」と入力して [続行] をクリックします。
- 10 「このコンピュータにネットワークがインストールされました...」とメッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。
- 11 「ネットワーク設定の変更」画面で「...今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたら [いいえ] をクリックし、「Service Pack6a」のインストールを行います。



次ページ「Service Pack6aのインストール」


Service Pack6aのインストール

Service Pack6aのインストールは、次の手順で行います。


- 1 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 2 「名前」に「C:¥SP6¥SP6I386」と入力して[OK]をクリックします。
(¥SP6I386のIは、アルファベット)
- 3 画面の指示に従ってインストールを行います。
「WindowsNT Service Packセットアップ」画面では「同意する」にチェックマークを付け、「後でService Packをアンインストールできるように...。」のチェックを外します。
- 4 「インストールは完了しました」と表示されたら、[再起動]をクリックします。
Windowsが再起動するとService Pack6aのインストールは終了です。
続けて、「セットアップ終了後の作業」を行います。
 次ページ「セットアップ終了後の作業」

セットアップ終了後の作業

WindowsNT4.0セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

VirusScan for Windowsのインストール
 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。
 「VirusScan for Windows」をインストールします。
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

Option Packのインストール
 必要に応じて「WindwosNT4.0 Option Pack」のインストールを行います。

HDDの領域設定
 HDDの未設定領域を使用できるように設定します。
 p.57「購入時のHDD領域について」

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

バックアップディスクの作成

本章では、バックアップディスクについて説明します。

バックアップディスクの役割

バックアップディスクは、「リカバリCD-ROM」に登録されていない周辺機器用のデバイスドライバや、最新のドライバをインストールするためのディスクです。

バックアップFD作成ユーティリティの実行

バックアップディスクは、「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。

「バックアップFD作成ユーティリティ」は、次の場所から実行します。

WindowsMe/Windows98

: [スタート]「プログラム」「アクセサリ」「システムツール」「バックアップFD作成ユーティリティ」

Windows2000/WindowsNT4.0

: [スタート]「プログラム」「バックアップFD作成ユーティリティ」

バックアップディスクを作成する必要がある場合は、「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。画面に表示されたディスクは、必ずバックアップディスクを作成してください。

何もバックアップディスクを作成する必要がない場合は、「お使いのコンピュータではバックアップディスクを作成する必要はありません。」と表示されます。




制限

バックアップディスクを作成する前に、HDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりするとバックアップディスクが作成できなくなります。

バックアップディスクを作成しないとリカバリの実行後に周辺機器や最新のドライバをインストールできなくなります。

バックアップディスクの作成

バックアップディスクの作成方法は、次のとおりです。フォーマット済みのFDに必要な枚数用意してください。

 p.53「FDのフォーマット」

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると「作成するディスクセットの選択」画面が表示されます。
- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットを選択し、[次へ]をクリックします。
- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管します。

 p.54「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



制限

電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切っていてもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windows Meの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows Meを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「終了」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows Meが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にマークが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

WindowsNT4.0の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsNT4.0を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「シャットダウン」画面で「コンピュータをシャットダウンする」にマークが付いている状態で[はい]をクリックします。
- 3 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されたら、コンピュータの電源スイッチを押して電源を切ります。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合。

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合。

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。万一データを消失してしまった場合に備えて、日頃からデータをHDDなどに保存しておくことをおすすめします。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

「電源の切り方」を参照して、[スタート]からWindows上でリセットします(プログラムハングアップ時は、使用できません)。

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

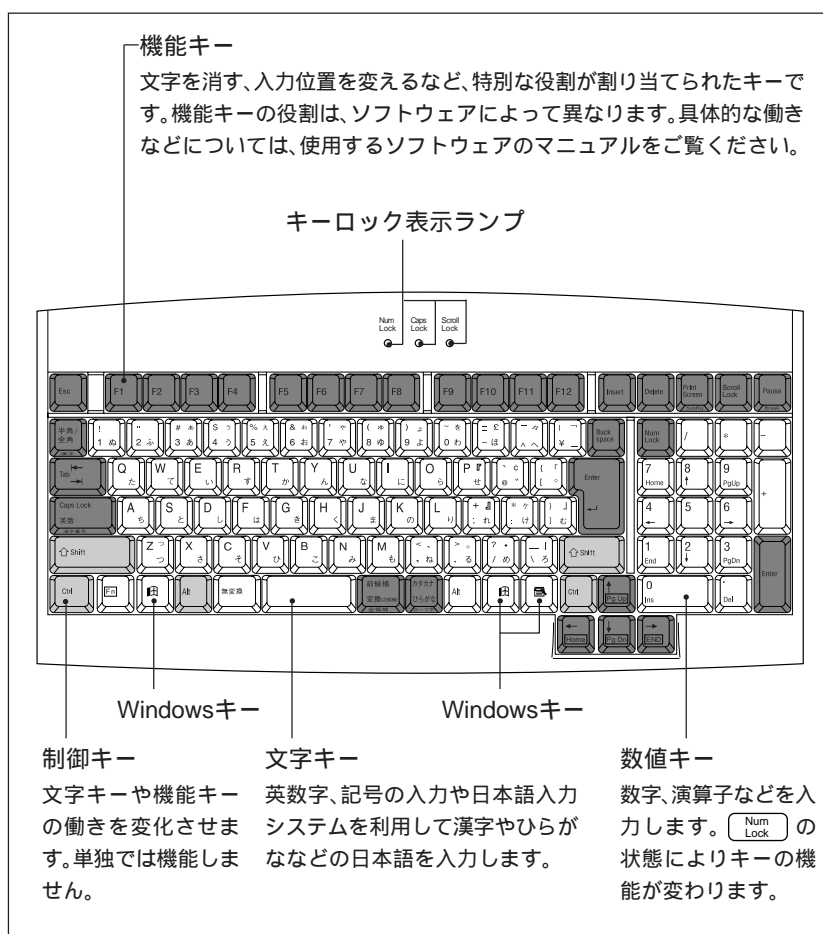
キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応106キーボードです。
キーボードの接続方法は、p.11「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

106個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく5つのグループに分けられます。








入力キー



キートップに表示された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。













キーロック 表示ランプ

キーボードの上部には、次の3つのランプがあります。

- NumLock** :  の状態を示します。
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。数値キーの役割を切り替えます。点灯状態で、数値キーを押すと、キーの上側に印刷された数字が入力されます。消灯状態では、数値キーの下側に印刷された矢印などの機能キーの役割になります。
- CapsLock** :  の状態を示します。
 +  を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。文字キーで入力される文字の種類を切り替えます。点灯状態では大文字が入力され、消灯状態では小文字が入力されます。
- ScrollLock** :  の状態を示します。
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。このキーはソフトウェアによって機能が異なります。
 詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、 キーと組み合わせて使用することができます。

 + 	 (Page Up)の役割をします。
 + 	 の役割をします。
 + 	 (Page Down)の役割をします。
 + 	 の役割をします。

日本語の入力

ひらがなや漢字などの日本語の入力や£、¢、¥などの特殊記号の入力には、日本語入力システムを使用します。本機では、Windowsに添付のMS-IMEを使用しています。

日本語や特殊記号の詳しい入力方法は、『クイックスタートガイド』(Windows98/WindowsNT4.0は、『ファーストステップガイド』)または「MS-IMEのオンラインヘルプ」をご覧ください。



記号の入力

インターネットでURLやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、次のキーを押して入力します(日本語入力システムをオフにした状態)。



















入力記号	入力方法
{ コロン }	
{ セミコロン }	
{ ハイフン }	
{ スラッシュ }	
@(アットマーク)	
(チルダ)	+
_ アンダーバー)	+

Windowsキーと組み合わせて使うキー

2つのWindowsキーは、次の働きをします。

Windowsキー	機 能
	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機 能
 + 	Windowsのヘルプが表示されます。
 + 	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + 	「検索:条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 +  + 	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + 	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
 +  + 	最小化されているウィンドウをすべてもとのサイズに戻します。
 + 	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + 	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

マウスを使う

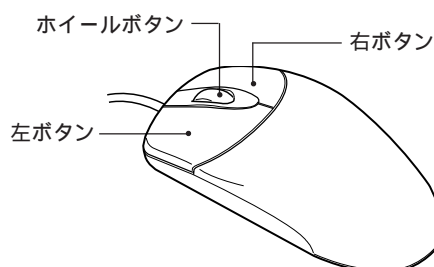
本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

ホイール機能を使用するには、「マウスドライバ」がインストールされている必要があります。「マウスドライバ」は、購入時にはインストールされています。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ: マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態のマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、「コントロールパネル」-「マウス」を開いて、設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする機器です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD : 1 44MBまたは1.25MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



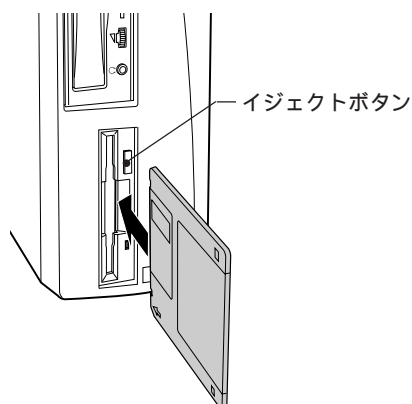
制限

アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

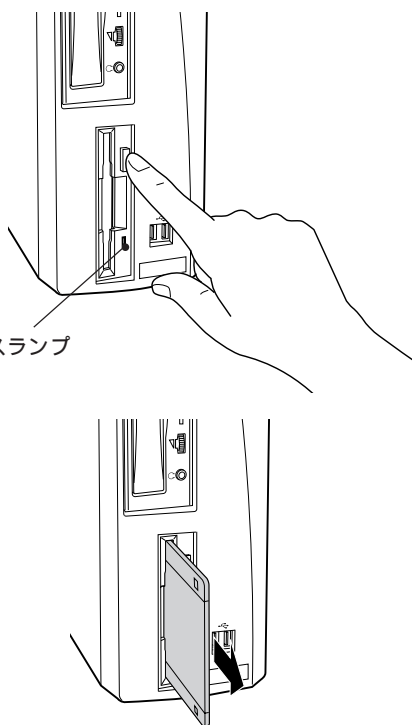
- 1 ラベル面を本体の左側に向け、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。

FDDアクセスランプ



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
本機には、1.25MBフォーマット用のユーティリティは添付されていません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



制限

Windows2000では、Windowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを連続して2枚以上フォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

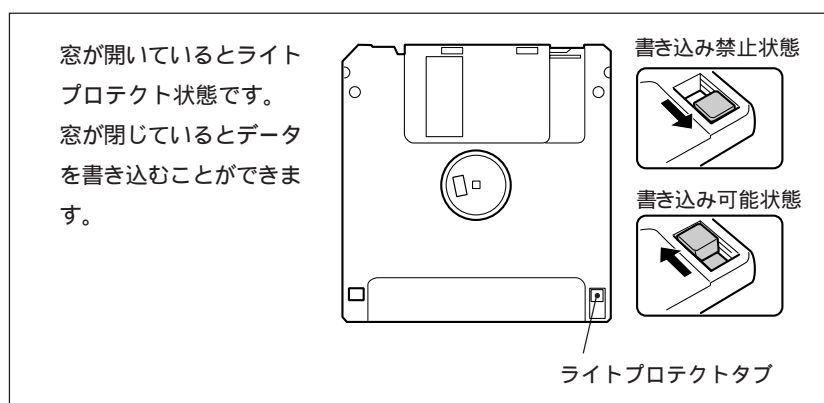
- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示された場合は、「OK」をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。
- 5 「閉じる」をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。

データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万データが消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく安心です。ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



1.25MBのFDを使用する

本機のWindowsには、あらかじめ専用の「3モードFDDドライバ」がインストールされており、1.25MBフォーマットのFDを使用することができます。1.25MBフォーマットは、EPSON PC(98互換機)シリーズや日本電気(株)製 PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

3 モード F D D ドライバ

1.25MBフォーマットのFDは、1.44MBフォーマットのFD同様に、Aドライブで使用することができます。

1.25MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.25MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。

512バイト/セクタでフォーマットされた1.21MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは、日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォーマット)でフォーマットされたディスクです。

1.25MBフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

1.25MBフォーマットのFDからシステムを起動させることはできません。

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、FDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

	ドライブ	ファイルシステム
Windows Me インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 98 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 2000 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows NT4.0 インストールモデル	先頭の2GB (Cドライブ)	FAT16
	残りの領域	未設定

Windows NT4.0
インストールモデル
のHDD構成

Windows NT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GB(Cドライブ)に基本MS-DOS領域を作成して、Windowsをインストールします。このシステム領域を2GB以上に拡張することはできません。また、残りの領域は未設定です。このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して領域作成とフォーマットを行います。

Cドライブがデータでいっぱいになり、容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたは以降のドライブに移動すると、空き領域を確保できます。

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

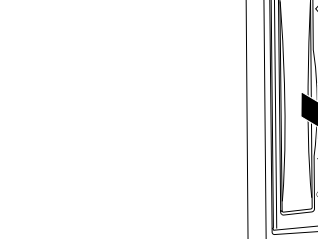
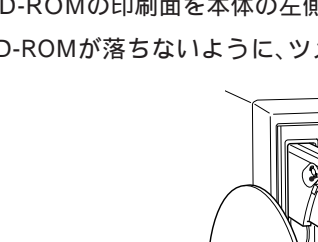
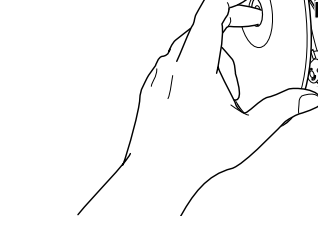
CD-ROMのセットと取り出し

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



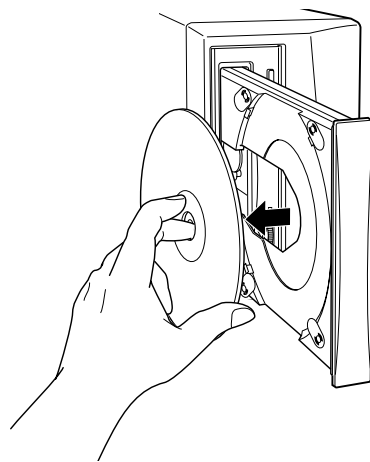
CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 
- A line drawing of a hand pressing a button on the front of a device. A label 'イジェクトボタン' (Eject button) points to the button. A black arrow indicates the button being pressed. The device has a vertical slot for a disc.
- 2 CD-ROMの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにセットします。
CD-ROMが落ちないように、ツメで固定します。
- 
- A line drawing of a hand inserting a CD-ROM into a device. A label 'ツメ' (Latch) points to the mechanism that holds the disc. A black arrow indicates the disc being inserted. The device has a vertical slot for a disc.
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。
- 
- A line drawing of a hand pressing a button on the front of a device. A label 'イジェクトボタン' (Eject button) points to the button. A black arrow indicates the button being pressed. The device has a vertical slot for a disc.

取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 ツメをもとに戻し、CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



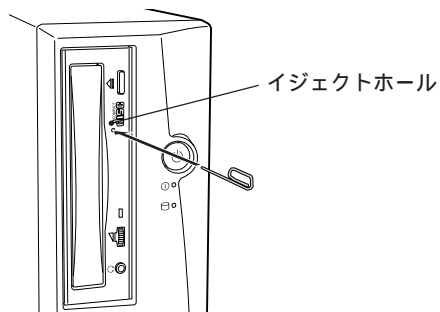
強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合。

CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。

- 1 電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

解像度や表示色を変更する

(ディスプレイ機能)


本機のメインボード上には、ディスプレイ機能(SIS 630 AGP set integrated 2D/3D)が搭載されています。解像度の設定などの基本的な操作について説明します。



参考

Safeモード・VGAモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード(Windows Me/Windows 98)またはVGAモード(Windows 2000/Windows NT 4.0)で起動して再設定を行ってください。

 p.111「ディスプレイの不具合」



制限

本機では、「解像度と表示色」に記載されている以外の設定を選択することができませんが、それらの設定に関しては保証していません。

本機では、「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「ディスプレイモード」タブで各種設定を行えますが、「ディスプレイモード」タブの機能に関しては保証していません。

Windows Meの場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

Windows 98の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

Windows 2000の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

WindowsNT4.0の場合

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「WindowsNTのヘルプ」も参照してください。

解像度や表示色
を変更するには

1

「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。

2

「ディスプレイの設定」タブをクリックします。

3

「デスクトップ領域」「カラーパレット」などの項目を設定したい内容に変更します。



表示色
を設定します。

解像度
を設定します。

4

項目を変更したら、[テスト]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 \ 解像度	256色	65536色	True Color
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

省電力機能

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



制限

WindowsNT4.0では、省電力機能は使用できません。「BIOS Setupユーティリティ」-「Powerメニュー画面」の設定を変更しないでください。設定を変更すると、コンピュータが正常に動作しなくなる場合があります。WindowsMe/Windows98/Windows2000インストールモデルでは、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます。

休止状態(WindowsMe/Windows2000)

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

休止状態を有効にする
(Windows2000)

Windows2000インストールモデルの場合、休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。

「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



WindowsMeインストールモデルの場合は、あらかじめ「休止状態をサポートする」にチェックが付いています。購入時は「1時間後」に設定されています。

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態 (WindowsMe/Windows2000)	消 灯
電源切断時	消 灯

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

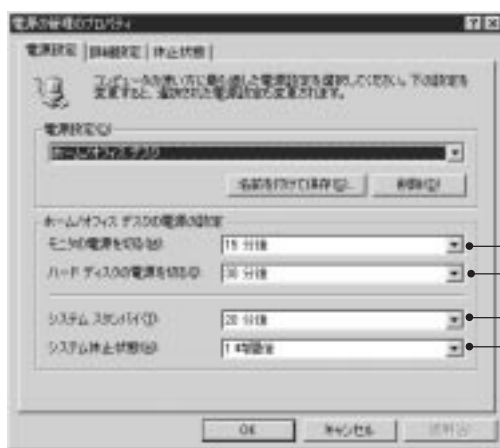
省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

WindowsMe/Windows98 :「コントロールパネル」-「電源の管理」

Windows2000 :「コントロールパネル」-「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、ディスプレイまたはHDDの電源が切れます。

設定した時間を超えて何も操作しないと、スタンバイまたは休止状態に移行します。

WindowsMeの場合

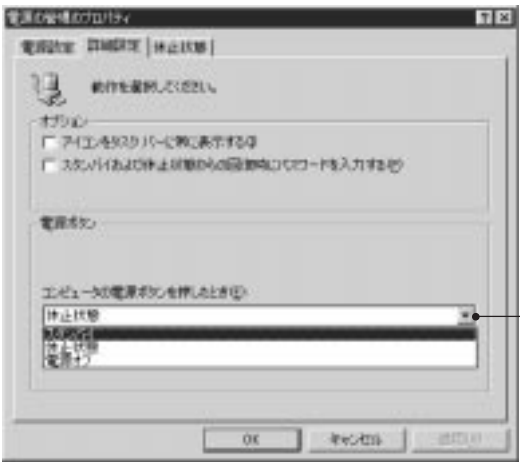
直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

[スタート] - 「Windowsの終了(Windows2000では、「シャットダウン 」)」から選択し、移行します。

電源スイッチを押して移行します。

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを「詳細設定」タブ (Windows98/Windows2000では、「設定」)で設定します。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

WindowsMeの場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	マウス、キーボードを操作する。 (誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ	緑点滅	電源スイッチを押す。 マウス、キーボードを操作する。
休止状態 (WindowsMe/ Windows2000)	消 灯	電源スイッチを押す。

その他の機能

サウンド機能

本機のメインボード上には、サウンド機能(SIS 630 Integrated AC'97)が搭載されています。また、スピーカも内蔵されているので、そのままでも音を鳴らすことができます。

スピーカを使用するには 背面にはライン出力コネクタ、ライン入力コネクタ、マイク入力コネクタとゲームポート/MIDIコネクタが用意されています。ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカを接続すれば、スピーカから音を鳴らすことができます。ライン出力コネクタにスピーカを接続すると、本機の内蔵スピーカからは音がでなくなります。

音を鳴らしたり、録音したりするには Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるといった場合には、「ボリュームコントロール」で音量を調節します。

サウンドユーティリティは、[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」(WindowsNT4.0の場合は「マルチメディア」)フォルダに登録されています。Windowsのサウンドユーティリティの使用方法是、『クイックスタートガイド』(Windows98/WindowsNT4.0は、『ファーストステップガイド』)やヘルプをご覧ください。

ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うのに必要となるプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。


ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

パラレルコネクタ

本機背面には、パラレルコネクタが1個用意されています。パラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。そのほか接続できるものについては、各周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

パラレルポート の設定

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.96「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。

シリアルポートの 設定

シリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.96「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

USBコネクタ

本機には、USBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタはすべて同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。USBコネクタを使用するには、接続する周辺機器に添付されているデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



制限

USBコネクタは、WindowsNT4.0では使用できません。

DFPコネクタ

本機背面のDFPコネクタには、デジタルモニタを接続します。詳しくは、デジタルモニタのマニュアルをご覧ください。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。

データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付のユーティリティCDに登録されています。

システムの拡張


コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

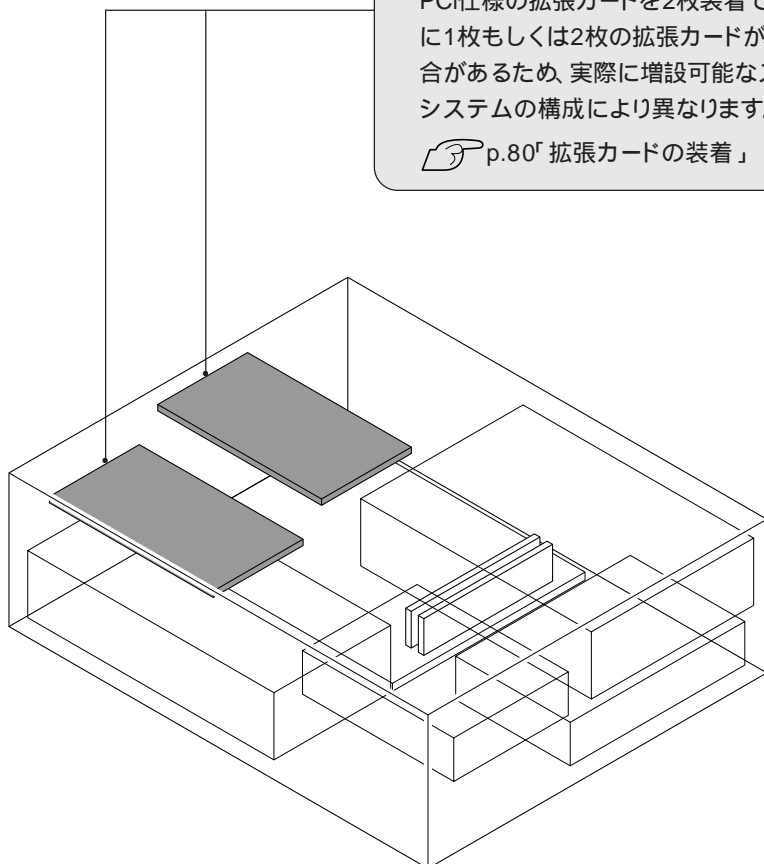
拡張できる装置

本機は、拡張カードを増設・交換して機能を拡張することができます。

拡張スロット

PCI仕様の拡張カードを2枚装着できます。購入時に1枚もしくは2枚の拡張カードが、装着済みの場合があるため、実際に増設可能なスロットの数は、システムの構成により異なります。

 p.80「拡張カードの装着」



作業時の注意

コンピュータ内部に拡張カードを装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



拡張カードの装着、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

拡張カードを装着するときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や拡張カードに添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。

コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。

コンピュータ内部のケースや基盤には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。

作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。

本体カバーの取り外し・取り付け



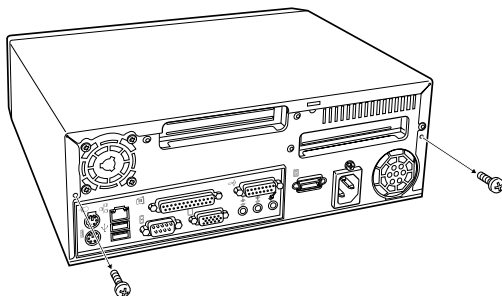
電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

本体カバーの取り外し・取り付け

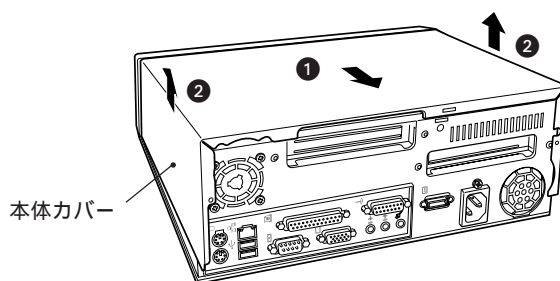
本機の内部に拡張カードを装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。
本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。作業は、コンピュータを横置きにして行ってください。

取り外し

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 電源コード、キーボード、ケーブルなどすべてのケーブル類をコンピュータ本体から外します。



- 3 本体背面のネジ(2本)を外します。
- 4 本体カバーを取り外します。
 - ① 本体カバーを背面側にずらしします。
 - ② 本体カバー側面両側を持ち上げます。

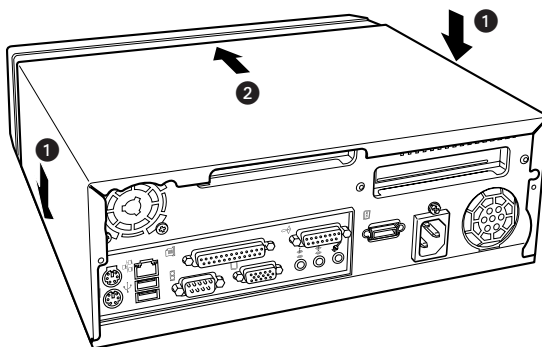


取り付け

1

本体カバーを取り付けます。

- ① 本体カバーを本体側面両側にはめ込みます。
- ② 本体背面からフロントパネルのヘリに向けて、押し込みます。



2

ネジ(2本)で本体カバーを固定します。

3

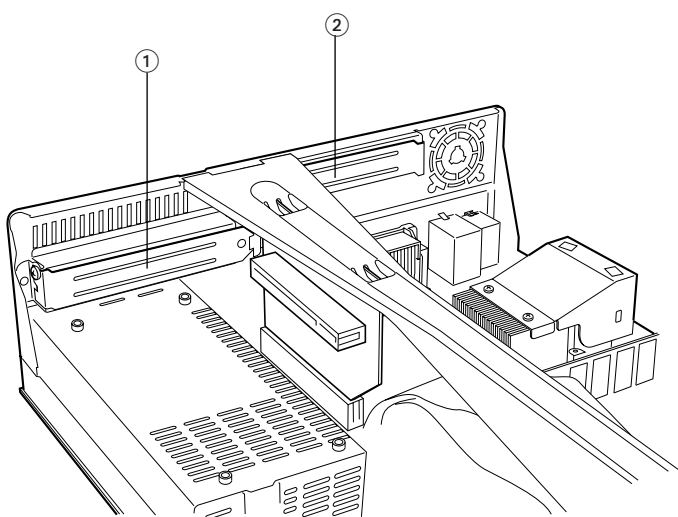
カバーを取り付けたら、外したケーブル類をもとどおり接続します。

拡張カードの装着

拡張スロットの仕様と拡張カードを取り付ける方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、2つの拡張スロットがあります。各スロットの仕様は、次のとおりです。



スロット番号	コネクタ仕様	拡張カードサイズ (mm)
①	PCI	125 (W) × 100 (H)
②	PCI	125 (W) × 100 (H)

拡張カードの取り外し・取り付け


拡張カードを装着する前に、必ず拡張カードに添付のマニュアルをご覧ください。
作業は、コンピュータを横置きにして行ってください。

取り付け

拡張カードの取り付け方法は、次のとおりです。

1

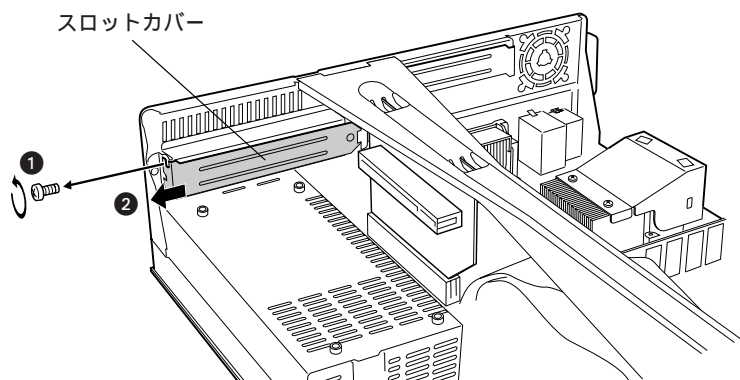
本体カバーを外します。

 p.78「本体カバーの取り外し・取り付け」

2

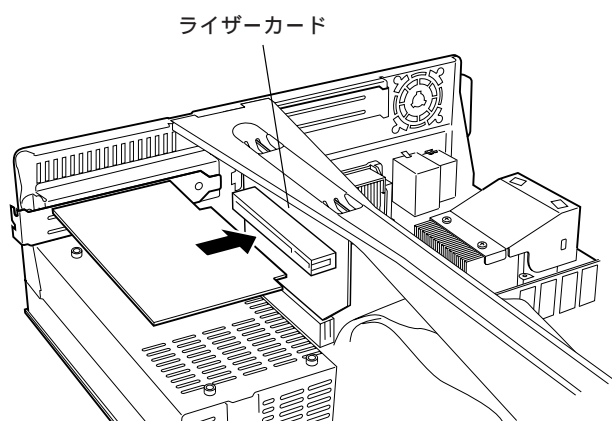
拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。

- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
- ② スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。

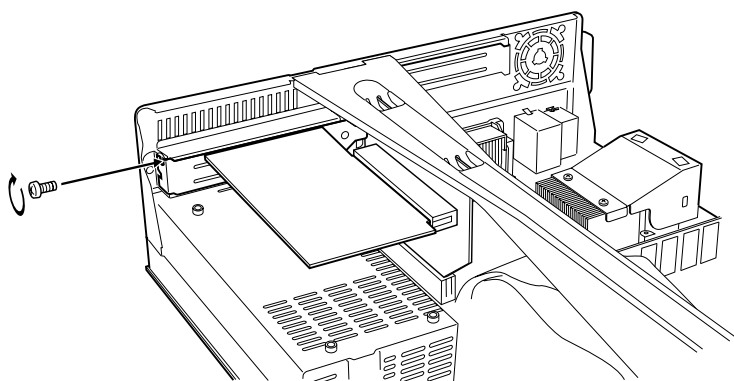



外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張カードを外したあと、別の拡張カードを装着しない場合は、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

- 3 拡張カードを差し込みます。
- 拡張カードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、ライザーカードを手で軽く押さえながら拡張カードをゆっくり押し込みます。



- 4 拡張カードをネジで固定します。





- 5 本体カバーを装着します。
-  p.78「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 6 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

取り外し

拡張カードの取り外し方法は、次のとおりです。

- 1 本体カバーを外します。
 p.78「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 拡張カードを固定しているネジを外します。
- 3 ライザーカードを手で軽く押さえながら拡張カードを引き抜きます。
- 4 拡張カードを取り外したスロットに別の拡張カードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けます。
- 5 本体カバーを装着します。
 p.78「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。



BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSはコンピュータの基本的な入出力を行うプログラムの集まりで、メインボード上にROMとして搭載されています。BIOSの設定により、コンピュータの基本的な動作が決定されます。BIOSは、コンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
パスワードを設定する場合

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行して変更します。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.124「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期設定値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.101「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」（初期設定値）を実行してください。

 p.89「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **[Delete]** を押してください。 **[Delete]** を押さないとシステムが起動します。


Press DEL to enter SETUP

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入れたら、次の現象が起こる場合があります。


「BIOS Setupユーティリティ」が起動する

「BIOS Setupユーティリティ」項目内容を確認または修正後に「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

 p.90「BIOS Setupユーティリティの終了」

「Press F1 to continue, DEL to enter SETUP」と表示される

[Delete] を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Change」を実行して終了します。

 p.90「BIOS Setupユーティリティの終了」

[F1] を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの操作は、キーボードで行います。BIOS Setupユーティリティが起動すると次の「メニュー画面」が表示されます。「メニュー画面」から、▶マークの付いている項目にカーソルを合わせて **[↓]** を押すと「サブメニュー画面」が表示されます。





<メニュー画面>

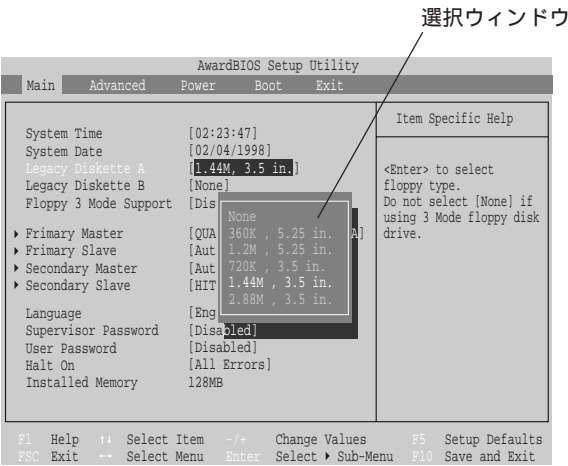
処理メニュー

<サブメニュー画面>




















選択ウィンドウ

BIOS Setupユーティリティの画面上で、設定値が黒字表示されている項目は設定の変更が可能です(青字表示されている項目は設定を変更することができません)。黒字表示の項目にカーソルを合わせて  を押すと、「選択ウィンドウ」が表示されます。  キーで移動して  を押すと、値が選択されます。



キー操作

キー	操作できる内容
 ,  + 	ヘルプを表示します。
	「EXIT」画面を表示します。 「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 設定値を選択します。
	全設定項目の値を、初期値に変更します。
	変更した設定値を保存して終了します。
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 **F5**を押す、または「Exitメニュー画面」「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値時に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

工場出荷時の状態に戻す (WindowsNT4.0)

WindowsNT4.0では、一部の項目の初期値と工場出荷値が異なります。

WindowsNT4.0使用時に「Load Setup Defaults」を実行した場合は、次の項目をWindowsNT4.0の工場出荷値に設定しなおします。そのまま使用すると正常に動作しないことがあります。

WindowsNT4.0の工場出荷値

Powerメニュー画面「Power Management」 : Disabled

Discard Changes

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exitメニュー画面」「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2種類の方法があります。

変更した内容を
保存し、終了する。
(Exit Saving
Changes)

1

「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存して終了する場合は[Yes]を選択し、を押します。

変更した内容を
破棄し、終了する。
(Exit Discarding
Changes)

1

「Exitメニュー画面」-「Exit Discarding Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存せずに終了する場合は[Yes]を選択し、を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : パワーマネージメント(省電力)に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期設定値に戻します。

Mainメニュー画面

■ は初期設定値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細 項目は、選択する ドライブにより 異なります。	Type	IDE装置の仕様を設定します。 IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には[User Type HDD]などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : 以降のHDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。 MO : MOドライブに関する項目を個別に設定することができます。 Other ATAPI Device : 上記ドライブ以外のATAPI機器に関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。「Type」項目を「Auto」に設定すると自動的に設定されます。 Disabled : 複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors : 転送セクタを設定します。 Maximum : HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期設定[Disabled]のまま使用します。
	PIO Mode	HDDの転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4/ 5 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
	Set Device as	「Type」項目で「MO」に設定した時のみ表示されます。 Auto : BIOSが自動的にMOのモードを設定します。 Floppy : MOドライブをFDモードで使用します。 Hard Disk : MOドライブをHDDモードで使用します。

Keyboard Features	キーボードに関する設定を行います。
Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
Keyboard Auto-Repeat Rate (キーリピート回数の設定)	1 秒間のキーリピート回数を選択します。 6 8 10 12 15 20 24 30 Sec
Keyboard Auto-Repeat Delay (ストローク間隔の設定)	最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。 1/4 1/2 3/4 1 Sec
Supervisor Password User Password	コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期設定値は[Disabled]です。☞「Passwordの設定」
Halt On (エラーチェックの設定)	システム起動時にチェックするエラーの種類を選択します。指定したエラーが発生するとシステムは起動を停止します。 All Errors : すべてのエラーチェックを行います。 No Error : エラーチェックを行いません。 All but Keyboard : キーボード関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk : FDD関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk/Keyboard : キーボード/FDD関連以外のエラーチェックを行います。
*Installed Memory	メモリ容量を自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は「Mainメニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled		
3	Supervisor Password	Disabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled		

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。

*2: 次の項目を指します。


「Mainメニュー画面」- 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exitメニュー画面」- 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの 設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
力し、 を押します。
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。


Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
わります。




登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パス
ワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
万一、パスワードを忘れた場合は、CMOS RAMを初期化することでパスワードをクリ
アすることができます。CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は、す
べてクリアされます。

 p.127「CMOS RAMの初期化」

パスワード の削除

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を
押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*Current CPU Internal Frequency (CPUのスピードの設定)	コンピュータに搭載されているCPUの周波数を表示します。
*FSB/SDRAM/PCI Freq. (MHz)	コンピュータに搭載されているシステム、メモリ、PCIスロットの周波数を表示します。
CPU Level 1 Cache (1次キャッシュメモリの設定)	CPUの1次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache (2次キャッシュメモリの設定)	CPUの2次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache ECC Check (2次キャッシュメモリのECCの設定)	CPUの2次キャッシュのECCの設定をします。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Processor Serial Number (プロセッサ・シリアル・ナンバーの設定)	プロセッサ・シリアル・ナンバーの有効/無効を設定します。Celeron CPU使用時には、表示されません。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
PS/2 Mouse Function Control (PS/2マウスの設定)	PS/2マウスを使用するかどうかを設定します。この場合、IRQ12が常にPS/2マウス用に確保されます。 Enabled : PS/2マウスを使用します。 Auto : 自動的に設定します。

Chip Configurationサブメニュー画面

VGA Shared Memory Size (ビデオメモリの設定)	メインメモリの一部をビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 2MB 4MB 8MB 16MB 32MB
USB Function (USB機能の設定)	USB機能の有効/無効を設定します。 Disabled : USB機能を無効にします。 Enabled : USB機能を有効にします。
Onboard LAN (LAN機能の設定)	メインボード上のLAN機能の有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 200H - 207H 208H - 20FH : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	メインボードのMIDIで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 330H - 331H 300H - 301H : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	メインボードのMIDIで使用するIRQ信号を設定します。 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15
Floppy Disk Access Control (FDのアクセス設定)	フロッピーディスクのアクセス方法を設定します。この設定は、BIOSを使用しないFormatコマンドなどでは機能しません。 R/W : 読み込み/書き込み可能 Read Only : 読み込みのみ可能
Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5, 3BCH/IRQ7
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺機器で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPPモードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します ECP+EPP : EPP+ECPモードに設定します。
ECP DMA Select (パラレルポートのDMA設定)	動作モードにECP、ECP+EPPを選択した場合のDMAチャンネルを設定します。 1 : DMAチャンネル1を使用します。 3 : DMAチャンネル3を使用します。

PCI Configurationサブメニュー画面

Slot x IRQ (PCIスロットのIRQ設定) x=1 2	PCIスロットごとで使用する割り込み(IRQ)を設定します。 Auto : 自動設定します。 NA : 使用しません。 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15 : IRQ3/4/5/7/9/10/11/12/14/15を使用します。
--	--

Power メニュー画面

省電力機能の設定を行います。



制限

WindowsNT4.0では「Powerメニュー画面」の「Power Up Control」以外の設定は機能しません。工場出荷時の設定のままでお使いください。

WindowsMe/Windows98/Windows2000では、省電力に関する設定は、Windowsでの設定が優先されます。

省電力に関する設定は、WindowsMe/Windows98の「電源の管理」またはWindows2000の「電源オプション」で設定を行ってください。

p.68「省電力機能」

Power Management (省電力機能の設定)	<p>省電力モードに移行する時間を設定します。</p> <p>Max Saving : 省電力モードを有効にします。Min Savingと比べて省電力モードへの移行時間が短くなります。</p> <p>Min Saving : 省電力モードを有効にします。Max Savingと比べて省電力モードへの移行時間が長くなります。</p> <p>Disabled : 省電力モードを無効にします。</p> <p>User Define : 省電力モードへの移行時間を設定します。</p> <p>WindowsNT4.0は、工場出荷時には、「Disabled」に設定されていますが、「Load Setup Defaults」を実行した場合は、「User Define」に設定されます。「Load Setup Defaults」実行後は、「Disabled」に設定を戻します。</p>
Video Off Option (ビデオ信号の設定)	<p>ビデオ信号を停止するタイミングを選択します。</p> <p>Suspend->Off : 省電力モード時に停止します。</p> <p>Always On : ビデオ信号を停止しません。</p>
Video Off Method (ビデオ信号の設定)	<p>ビデオ信号を停止する方法を選択します。</p> <p>V/H SYNC+Blank : 垂直/水平同期信号を停止し、ビデオ信号をブランク信号にします。</p> <p>DPMS Standby / DPMS Suspend / DPMS OFF</p> <p>DPMSに従ってビデオ信号を停止します。</p> <p>Blank Screen : ビデオ信号をブランク信号にします。DPMSなどの省電力機能に対応していないディスプレイを使用する場合に選択します。</p>
HDD Power Down (HDDモータの停止時間の設定)	<p>HDDのモータを停止する時間を設定します。内蔵IDE HDDのみ有効です。SCSI HDDには機能しません。</p> <p>Disabled : HDDを停止しません。</p> <p>1 ~ 15 Min : 1分から15分を選択します。</p>
Suspend Mode (サスペンドモードの設定)	<p>サスペンドモードに移行する時間を設定します。</p> <p>Disabled : 省電力モードに移行しません。</p> <p>1Min ~ 1Hour : 1分から1時間を選択します。</p>
PWR Button < 4 Secs (電源OFFの設定)	<p>電源OFFのタイミングを設定します。</p> <p>Soft Off : 4秒以下電源スイッチを押した時に、電源OFFになります。</p> <p>Suspend : 4秒以下電源スイッチを押した時に、サスペンドモードになります。</p>

Power Up Control(電源投入方法の設定)	電源をONにする方法や条件を設定します。
AC PWR Loss Restart (再起動時の電源の設定)	<p>電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に起動するかどうかを設定します。</p> <p>Enabled : 電源オフ時に、AC電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。</p> <p>Disabled : AC電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。</p> <p>Previous State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後にAC電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、AC電源が供給されてもコンピュータは起動しません。</p>
PWR Up On External Modem Act: (モデム自動受信の設定)	<p>電源OFF時、シリアルポートに接続したモデムに着信した時に電源ONするかどうかを設定します。</p> <p>Enabled : 自動的に受信します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p>
Wake On LAN or PCI Modem: (LANまたはモデムからの起動設定)	<p>電源OFF時、ネットワークまたはWake on Ring 対応PCIモデムからの信号により、電源ONするかどうかを設定します。AC電源が切れると無効になります。</p> <p>Enabled : 設定します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p>

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、システムの起動方法を設定します。

[1.Removable Device][2.IDE Hard Drive][3.ATAPI CD-ROM][4.Other Boot Device]

では、システムを起動する順番を設定します。

ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

上記以外の項目では、システム起動時に行う動作などを設定します。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。 Disabled /Legacy Floppy
2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。
3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。
4. Other Boot Device	SCSI装置から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device
Plug & Play O/S (Plug & Play対応OSの設定)	初期設定[No]のまま使用します。
Boot Virus Detection (ウィルスチェックの設定)	ブートセクタに感染するウィルスをチェックします。 Disabled : チェックしません。 Enabled : チェックします。
Quick Power On Self Test (POSTの設定)	システム起動時のPower On Self Test(POST)の実行回数を選択します。 Disabled : 複数回実行します。 Enabled : 1回だけ実行します。起動時間を短くすることができます。
Boot Up Floppy Seek (シークの設定)	起動時にFDDのシーク動作を行うかを選択します。 Disabled : シーク動作を行いません。 Enabled : シーク動作を行います。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A	None 1.44M 3.5 in		None 1.44M 3.5 in	
Primary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Set Device as				
Secondary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Set Device as				
Keyboard Features				
Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On
Keyboard Auto-Repeat Rate	()sec.	()sec.
Keyboard Auto-Repeat Delay	()sec.	()sec.
Halt On	All Errors	No Error	All but Keyboard	All but Keyboard
	All but Disk	All but Disk/Keyboard	All but Disk	All but Disk/Keyboard

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
CPU Level 1 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache ECC Check	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Processor Serial Number	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
PS/2 Mouse Function Control	Enabled	Auto	Enabled	Auto

Chip Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
VGA Shared Memory Size	()MB		()MB	
USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

I/O Device Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Onboard AC97 Audio Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Game Port	Disabled	200H-207H 208H-20FH	Disabled	200H-207H 208H-20FH
Onboard MIDI I/O	Disabled	330H-331H 300H-301H	Disabled	330H-331H 300H-301H
Onboard MIDI IRQ	3 4 5 7 9 10 11 12 14 15		3 4 5 7 9 10 11 12 14 15	
Floppy Disk Access Control	R/W	Read Only	R/W	Read Only
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled		3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled	
Onboard Parallel Port	Disabled 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7		Disabled 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7	
Parallel Port Mode	Normal EPP ECP ECP+EPP		Normal EPP ECP ECP+EPP	
ECP DMA Select	1	3	1	3

PCI Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Slot 1 IRQ	Auto NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
Slot 2 IRQ	Auto NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容				
Power Management		Max Saving	Min Saving	Disabled	User Define	Max Saving	Min Saving	Disabled	User Define
Video Off Option		Suspend->Off		Always On		Suspend->Off		Always On	
Video Off Method		V/H SYNC+Blank	DPMS Standby	DPMS Suspend		V/H SYNC+Blank	DPMS Standby	DPMS Suspend	
		DPMS OFF		Blank Screen		DPMS OFF		Blank Screen	
HDD Power Down		Disabled	()Min	Disabled	()Min
Suspend Mode		Disabled	()Min/Hour	Disabled	()Min/Hour
PWR Button < 4 Secs		Soft Off		Suspend		Soft Off		Suspend	
Power Up Control	AC PWR Loss Restart	Disabled	Enabled	Previous State		Disabled	Enabled	Previous State	
	PWR Up On External Modem Act:	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
	Wake On LAN or PCI Modem	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
() Removable Device		LegacyFloppy	Disabled		LegacyFloppy	Disabled	
() IDE Hard Drive		Disabled	()		Disabled	()	
() ATAPI CD-ROM		Disabled	()		Disabled	()	
() Other Boot Device		Disabled	SCSI Boot Device		Disabled	SCSI Boot Device	
Boot Virus Detection		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Quick Power On Self Test		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Boot Up Floppy Seek		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	



こんなときは

困ったときに
警告メッセージが表示されたら

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.11「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。


確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.119「警告メッセージが表示されたら」


起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.119「警告メッセージが表示されたら」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期設定値に戻してください。

 p.89「設定値をもとに戻すには」

BIOSを初期設定値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.127「CMOS RAMの初期化」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.93「Mainメニュー画面」-「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.46「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.127「CMOS RAMの初期化」

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。




DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

確認と対処

起動ディスクなどシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.114「HDDの不具合」

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処  +  +  を押してリセットします。


リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.40「電源の切り方」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。




確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.124「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない


確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

省電力モードから復帰できない場合は、 +  +  を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合

現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。

 p.46「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.11「コンピュータの設置」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。


アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.40「電源の切り方」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 日本語キーボードドライバの特性により、キートップに刻印されている一部の文字は入力できません。

 p.46「キーボードを使う」

OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」-「システム」アイコン(Windows2000/WindowsNT4.0は、「キーボード」アイコン)をダブルクリックして確認します。

WindowsMe/Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

Windows2000 : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

WindowsNT4.0 : PC/AT106日本語(A01)キーボード

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.11「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.40「電源の切り方」

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスカーソルが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.11「コンピュータの設置」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.122「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはマウスを操作してください。電源ランプ点滅時は電源スイッチを押すと復帰します。

 p.68「省電力機能」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認してください。

 p.11「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows Me/Windows 98の場合はSafeモードで、Windows 2000/Windows NT 4.0の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safeモードでの
起動（Windows
Meの場合）

WindowsMeをSafeモードで起動する方法は、次の通りです。Safeモードは、WindowsMeを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程度放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されたら、「3.Safemode」を選択し、**↵** を押します。

Safeモードでの
起動（Windows
98の場合）

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程度放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**↵** を押します。

VGAモードでの
起動（Windows
2000の場合）

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程度放置したあと、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、**↵** を押します。

VGAモードでの
起動（Windows
NT4.0の場合）

1

Windows NT4.0をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。

2

「オペレーティングシステムの起動」が表示されたら「Windows NT・・・[VGA mode]」を選択します。

FDDの不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥
デバイスの準備ができていません。
[OK]

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で利用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。


 p.55「1.25MBのFDを使用する」

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期設定値となっているか確認してください。

起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 FDに書き込みできない。


確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.54「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
 p.91「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

CD-ROMドライブの不具合

現象

セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。

コンピュータに添付されていたCD-ROM(「ユーティリティCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとCD-R/CD-RWメディアとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたCDが読み込めない。

確認と対処

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windows には音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレーヤー」が標準で添付されています。

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

アプリケーションソフトの不具合

現象

アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処

過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象

アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処

アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

- 現象** メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。
- 確認と対処** 購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

拡張カード、周辺機器の増設に関する不具合

- 現象** 拡張カード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。
- 確認と対処** 増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。
- 増設した機器のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいことを確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張カードで重複して設定しているとコンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張カード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- WindowsMe/Windows98では、「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。
- Windows2000では、「コントロールパネル」-「システム」-「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。
- 周辺機器を追加するために拡張カードを装着した場合、周辺機器と拡張カードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
- 拡張カードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要なものがあります。拡張カードのマニュアルを確認してください。
- 拡張カードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。

プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処

内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。☞ p.124「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。 ☞ p.124「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDD初期化ができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、BIOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を "Halt On: All But Keyboard" キーボード関連以外のエラーチェックを行う に設定します。これで、キーボードが接続されていない場合でもコンピュータは正常に起動します。

警告メッセージ	説 明
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、
HDDを購入時の状態に戻す方法や仕様
などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

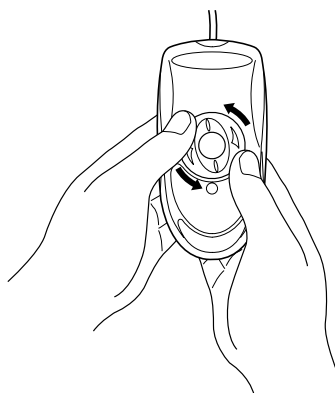
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2

マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032 または同等品



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。


マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



拡張カードの装着、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

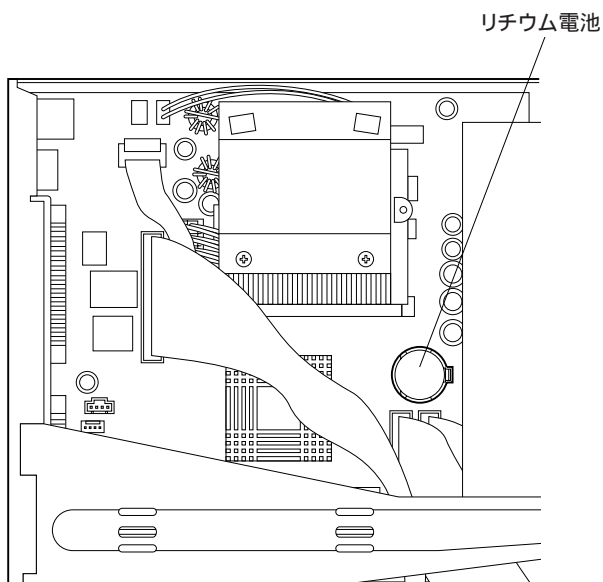
リチウム電池の交換は、次の手順で行います。作業は、コンピュータを横置きにして行ってください。

- 1 本体カバーを外します。必ず電源コードも外します。


 p.78「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 2 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

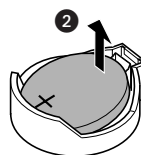
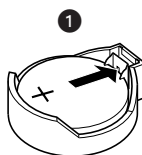


- 3 電池の取り外しの妨げになる場合は、拡張カードなどを取り外します。

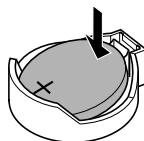
 p.80「拡張カードの取り外し・取り付け」

- 4 リチウム電池を抜きます。


- ① 電池ホルダの留め金を押します。(電池ホルダの形状は、機種により違う場合があります。)
- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




- 5 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面(+ 側)が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。
取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



- 6 手順3で拡張カードなどを取り外した場合は、再び取り付けます。

 p.80 拡張カードの取り外し・取り付け」

- 7 本体カバーを装着します。

 p.78 本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 外したケーブル類をもとどおり接続します。

- 9 コンピュータの電源を入れます。**[Delete]** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.87 BIOS Setupユーティリティの操作」

- 10 **[F5]** を押して「Load Setup Defaults」(初期値) を実行します。

 p.89 設定値をもとに戻すには」

- 11 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。

- 12 「Exitメニュー」画面 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。



電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや、感電・火災の原因となります。








拡張カードの装着、内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。
CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.101「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1 本体カバーを外します。
 p.78「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 作業の妨げになる拡張カード、ケーブル類や電源コネクタなどを外します。
- 3 リチウム電池を外します。
 p.124「リチウム電池の交換」
- 4 約1分間放置します。
- 5 リチウム電池を取り付けます。
 p.124「リチウム電池の交換」
- 6 外した拡張カード、ケーブル類や電源コネクタなどを取り付けます。
- 7 本体カバーを装着します。
- 8 電源ケーブルや外したケーブル類を接続します。
- 9 コンピュータの電源を入れます。**[Delete]**を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.87「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 10 **[F5]**を押して「Load Setup Defaults (初期値)」を実行します。
 p.89「設定値をもとに戻すには」
- 11 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 12 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因で、Windowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなったりした場合に、購入時の状態に戻してみてください。

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のメディアが必要です。

リカバリCD-ROM

Windowsと各種デバイスドライバが登録されているリカバリCD-ROMです。

マウスドライバCD-ROM

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD-ROM

VirusScan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるOSおよびシステム構成によって異なります。

HDDを購入時の状態に戻す順番


次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。


リカバリの実行 (p.133)


リカバリCD-ROMを使用して、HDDのフォーマット作業およびWindowsと一部のデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。


Windowsのセットアップ

購入時に行った「Windowsのセットアップ」をもう一度行います。お客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。

WindowsMeインストールモデル  p.21

Windows98インストールモデル  p.24

Windows2000インストールモデル  p.28


WindowsNT4.0インストールモデル  p.33


マウスドライバのインストール (p.134)


「マウスドライバCD-ROM」を使用して、マウスドライバのインストールを行います。


セットアップ終了後の作業

セットアップ終了後の各種設定などを行います。

WindowsMeインストールモデル  p.22

Windows98インストールモデル  p.26

Windows2000インストールモデル  p.30

WindowsNT4.0インストールモデル  p.37

各種ドライバのインストール (p.135)

拡張カードやプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、デバイスドライバのインストールを行います。

HDDを購入時の状態に戻す前の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成がつぎのようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD

Cドライブ : HDD(基本MS-DOS領域)

Dドライブ : CD-ROMドライブ

リカバリの実行

リカバリを実行すると、バックアップディスクを作成することができなくなります。「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行し、バックアップディスクを作成する必要がある場合は、必ず作成しておいてください。

 p.38「バックアップディスクの作成」

リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。Dドライブ以降の領域が作成してある場合は、それらの重要なデータもバックアップしておいてください。

「リカバリCD-ROM」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

「リカバリCD-ROM」で、Windowsのみをインストールすることはできません。

リカバリ実行中は、「リカバリCD-ROM」を抜かないでください。

本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機を購入後に周辺機器を取り付けた場合は、手順が異なる場合があります。正常に購入時の状態に戻せない場合は、購入時のシステム構成に戻してみてください。

本機の入力時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsをインストールしています。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行するとファイルシステムは、購入時のファイルシステムに上書きされます。

WindowsMe : FAT32ファイルシステム

Windows98 : FAT32ファイルシステム

Windows2000 : FAT32ファイルシステム

WindowsNT4.0 : FAT16ファイルシステム

デバイスドライバのインストール

WindowsMe/Windows98/WindowsNT4.0インストールモデルの場合

FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合やプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「リカバリ実行 - 手順 7」の再起動時に「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。ここではインストールを行わないので「キャンセル」をクリックします。

拡張カードやプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「HDDを購入時の状態に戻す」作業後に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行ってください。

Windows2000インストールモデルの場合

FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合やプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「Windowsのセットアップ」終了後に「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。ここではインストールを行わないので「キャンセル」をクリックします。

拡張カードやプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「HDDを購入時の状態に戻す」作業後に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行います。

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに、「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMe/Windows98 : C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS

Windows2000/WindowsNT4.0 : C:\I386

セットアップ時の
手順について

リカバリ実行後の「Windowsのセットアップ」手順が一部異なります。「お知らせの確認」およびバックアップディスクに関する手順は行いません。そのまま次の手順に進んでください。

セットアップ終了
後の作業

「セットアップ終了後の作業」の次の作業は、必要に応じて行ってください。これらの作業は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windowsのセットアップ」後に一度行っているため、通常は必要ありません。

WindowsMeインストールモデルの場合

WindowsMe起動ディスクの作成

Windows98インストールモデルの場合

Windows98起動ディスクの作成

Windows2000インストールモデルの場合

セットアップブートディスクの作成

WindowsNT4.0インストールモデルの場合



HDD領域の作成



弊社製以外のBIOSを使用すると、HDDを購入時の状態に戻すことができなくなります。

リカバリの実行

次の手順でHDDを購入時の状態に戻します。

- 1 コンピュータの電源を入れて、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.87「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 2 「Bootメニュー画面」-「ATAPI CD-ROM」の優先順位を1番に変更します。
 p.99「Bootメニュー画面」
- 3 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 3 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。コンピュータが起動します。
- 4 「EasyRestore」画面が表示されたら、「続ける」をクリックします。
- 5 「警告」画面が表示されます。「はい」をクリックします。
- 6 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、10分程かかります。
「リカバリCD-ROM」が2枚添付されている場合は、画面の指示に従って「リカバリCD-ROM」の2枚目をセットし、リカバリの実行を続行します。
- 7 「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜いて「再起動」をクリックし、コンピュータを再起動します。
- 8 「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Bootメニュー画面」-「ATAPI CD-ROM」の順番をもとに戻します。
- 9 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択します。
- 10 これでWindowsおよびドライバの再インストールは終了です。コンピュータが起動するとWindowsのセットアップが始まります。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:\SETUP」と入力し、[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAX モデムカードを装着している場合 : FAX モデムドライバ

SCSI カード・SCSI 機器を装着している場合 : SCSI ドライバや SCSI ユーティリティなど

HDD領域の変更

MS-DOS領域の種類

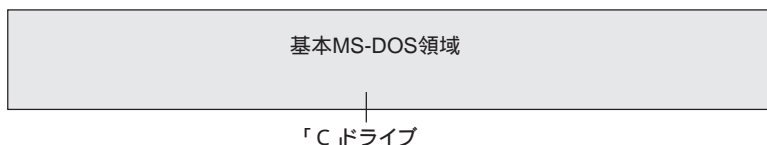
MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

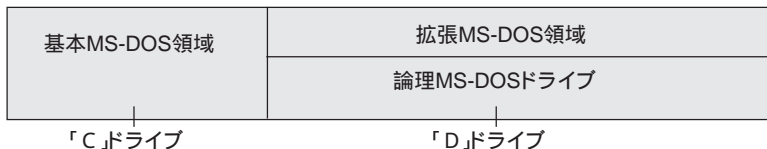
基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。(Windows NT4.0の場合、Cドライブの最大サイズは、2GBです。)これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

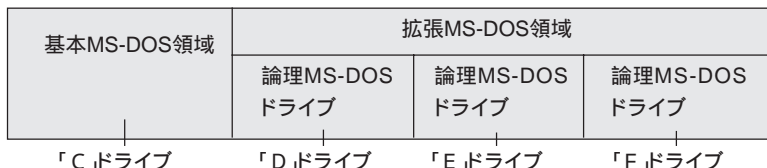
基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



HDD領域の変更

HDD領域の変更は、MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したい場合に行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめFDなどにバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、「リカバリCD-ROM」に登録されています。

大容量ディスク サポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますが(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。

大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16ファイルシステム)の基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBです。そのため2GBを超えるHDDに対しては複数のドライブ作成が必要です。FAT32ファイルシステムでは、2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。



本機の購入時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると、ファイルシステムは、購入時のファイルシステムに上書きされます。

WindowsMe	FAT32ファイルシステム
Windows98	FAT32ファイルシステム
Windows2000	FAT32ファイルシステム
WindowsNT4.0	FAT16ファイルシステム

既存領域の削除

起動方法

次の方法でコンピュータを起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 コンピュータの電源を入れて、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.87「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 2 「Bootメニュー画面」「ATAPI CD-ROM」の優先順位を1番に変更します。
 p.99「Bootメニュー画面」
- 3 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 4 「Exitメニュー画面」「Exit Saving Changes」で[Yes]を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
- 5 コンピュータが再起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックします。
- 6 画面左上にコマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。


既存領域の 削除

- 1 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。ただし、WindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 3 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS 領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS 領域」「基本MS-DOS 領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS 領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)
 を押してから を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。
Windows98インストールモデルの初期設定は、次のとおりです。
WINDOWS_98 (_は + を押します。)
そのほかのインストールモデルには、ボリュームラベルは設定されていません。そのまま を押します。
- 7 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 8 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成(p.140)手順4」に移ります。

- 9 FDISKを終了する場合は、 を押します。
- 10 コマンドプロンプト (A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS 領域の作成


- 1 「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。
 p.138「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト (A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。ただしWindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は2GBです。

7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。

を入力して を押した場合

基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動します。

大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。ただし、作成した領域にWindowsをインストールする場合は、フォーマットを行う必要はありません。Windowsのインストールを行ってください。

 p.133「リカバリの実行」

大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

を入力して を押した場合

を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。


8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。

10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。


11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

拡張MS-DOS領域と
論理MS-DOS
ドライブの
作成

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押します。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後フォーマットを行ってください。
 p.143「MS-DOS領域のフォーマット」

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

- 1 「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。
 p.138「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)
FORMAT D: (はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

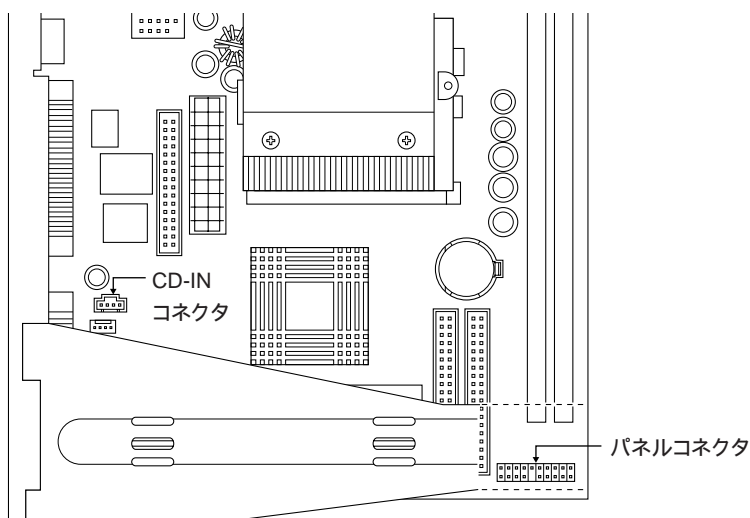
コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って、これらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

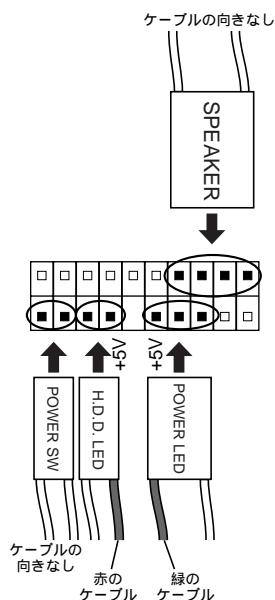
コネクタ位置
(メインボード上)



本体内部ケーブル
との接続

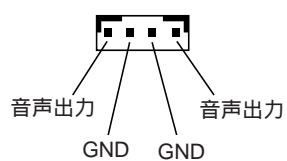
パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



CD-INコネクタ

CDオーディオケーブルでCD-ROMドライブのCDオーディオコネクタと接続します。コネクタの向きに合わせて接続します。

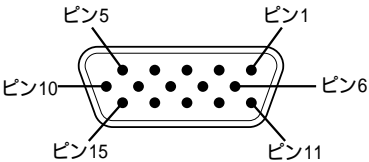


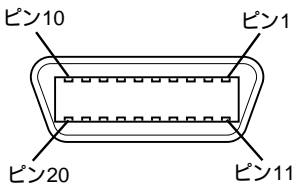
コネクタ仕様

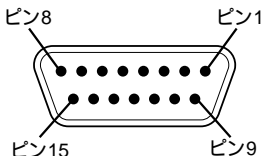
キーボード・マウスコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	DATA	データ信号
	2	Reserved	システム予約
	3	GND	接地
	4	+5V	電源
	5	CLK	クロック
	6	Reserved	システム予約

パラレルコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	STROBE	D0 ~ D7有効信号
	2	D0	Data Bit0 (印字データ)
	3	D1	Data Bit1
	4	D2	Data Bit2
	5	D3	Data Bit3
	6	D4	Data Bit4
	7	D5	Data Bit5
	8	D6	Data Bit6
	9	D7	Data Bit7
	10	ACK	データ受信
	11	BUSY	データ受信不可
	12	PE	用紙切れ
	13	SLCT	プリンタセレクト
	14	AUTFD	オートフィードモード
	15	ERROR	エラー
	16	INIT	初期化
	17	SLCTIN(DIR)	プリンタセレクトイン(データ方向)
	18 ~ 25	GND	接地

シリアルコネクタ 	ピン番号	信号	意味
	1	DCD	キャリア検出
	2	RXD	受信データ
	3	TXD	送信データ
	4	DTR	データ端末レディ
	5	GND	各信号線の接地
	6	DSR	データセットレディ
	7	RTS	送信要求
	8	CTS	送信可
	9	RI	被呼表示

VGAコネクタ		ピン番号	信号	意味
		1	Red Video	赤映像信号
		2	Green Video	緑映像信号
		3	Blue Video	青映像信号
		4	NC	未使用
		5	GND	接地
		6	Red GND	接地(赤)
		7	Green GND	接地(緑)
		8	Blue GND	接地(青)
		9	NC	未使用
		10	GND	接地
		11	NC	未使用
		12	DDCSTD	DDCデータ
		13	HSYNC	水平同期信号
		14	VSNC	垂直同期信号
		15	DDCSLK	DDCクロック

DFPコネクタ		ピン番号	信号	意味
		1	TX1+	TMDS1+
		2	TX1-	TMDS1-
		3	SHLD1	TMDS1シールド
		4	SHLDC	TMDSクロックシールド
		5	TXC+	TMDS+クロック
		6	TXC-	TMDS-クロック
		7	GND	接地
		8	+5V	電源
		9	No Connect9	未使用
		10	No Connect10	未使用
		11	TX2+	TMDS2+
		12	TX2-	TMDS2-
		13	SHLD2	TMDS2シールド
		14	SHLD0	TMDS0シールド
		15	TX0+	TMDS0+
		16	TX0-	TMDS0-
		17	No Connect 17	未使用
		18	HPD	ホットプラグ検出
		19	DDC_DAT	DDC2 Bデータ
		20	DDC_CLK	DDC2 Bクロック

<p>ゲームポート / MIDIコネクタ</p> 	ピン番号	信号	意味
	1	+5V DC	電源
	2	Button 4	ジョイスティックAボタン1
	3	Position 0	ジョイスティックAのX座標
	4	GND	接地
	5	GND	接地
	6	Position 1	ジョイスティックAのY座標
	7	Button 5	ジョイスティックAボタン2
	8	+5V DC	電源
	9	+5V DC	電源
	10	Button 6	ジョイスティックBボタン1
	11	Position 2	ジョイスティックBのX座標
	12	MIDI OUT	MIDI送信データ
	13	Position 3	ジョイスティックBのY座標
	14	Button 7	ジョイスティックBのボタン2
	15	MIDI IN	MIDI受信データ

<p>USBコネクタ</p> 	ピン番号	信号	意味
	1	VCC	電源
	2	- Data	信号
	3	+ Data	信号
	4	Ground	グランド

<p>LANコネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)</p> 	ピン番号	信号	意味
	1	TD +	送信データ +
	2	TD -	送信データ -
	3	RD +	受信データ +
	4	NC	未接続
	5	NC	未接続
	6	RD -	受信データ -
	7	NC	未接続
	8	NC	未接続

機能仕様一覧

CPU		Pentium IIIまたはCeleronプロセッサ
	セカンドキャッシュ	Pentium IIIプロセッサ : 256KB Celeronプロセッサ : 128KB
メモリ	ROM	BIOS 他256KB EPPROM
	メインメモリ	最大512MBまで搭載可能
ビデオコントローラ		SIS 630 AGP set integrated 2D/3D
サウンドコントローラ		SIS 630 Integrated AC'97
キーボード		日本語対応106キー
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵 3モード対応1.44MB/1.25MB/720KB
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/66対応
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	VGAインタフェース	1(アナログRGB D-SUB 15ピン)
	DFPインタフェース	1(デジタルMDR20ピン)
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	サウンドインタフェース	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、 マイク入力コネクタ×1、ゲームポート/MIDIコネクタ×1
	USBインタフェース	4(本体前面×2、本体背面×2)
	ネットワークインタフェース	1(RJ-45 10Base-Tおよび100Base-TX自動認識)
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで使用済み)
	5.25型ドライブベイ	1(CD-ROMドライブで使用済み)
	HDDドライブベイ	1(HDDで使用済み)
外部拡張スロット		2(PCI対応スロット(125 [W] × 100 [H] mm))
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		121W
入力電圧		AC 100 V ± 10% 50/60 Hz
温湿度条件		温度: 10 ~ 35
		湿度: 20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体: 約290(幅) × 367(奥行) × 104(高さ) mm(突起部除く)
重量		本体: 約6.2Kg(本体のみ)
消費電力		待機時消費電力37W(最大80W)

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介せずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

使用例 DMA転送により高速なデータの入出力が可能です。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通ridorのこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードで使用するDMAチャンネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。DRAMにはFastPageモード、EDOモードなどの種類があります。

FAT16ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を16ビットに拡張したファイルシステム。FAT16ファイルシステムでは、基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBで、その容量を超えるHDDに対しては、複数のドライブの作成が必要です。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16では2GBまで)。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种。一般的に採用されている拡張バスです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略。コンピュータと周辺装置間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

使用例 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。USB対応のキーボードやマウス、ジョイスティックなどが接続されます。

Ultra ATA/66

IDEインタフェース上において66MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

使用例 Ultra ATA/66対応ケーブル

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きします。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

【使用例】 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

【使用例】 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

【使用例】 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

【類義語】 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、AGPバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードなどがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

【使用例】 マウスカーソル

起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

【類義語】 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

【使用例】 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

【使用例】 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

【使用例】 システムを起動する。= コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度＝画面上に1024×768個の点を表示することができます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリ。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

【使用例】 メインメモリは64MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利

用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

【類義語】 システム資源

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

1.25MBフォーマットFD	55
2HD(FDD)	51
2DD(FDD)	51
3.5 型FDD	9

A

Adobe Acrobat Reader	
----------------------------	--

B

BIOSの設定	85
BIOS Setupユーティリティの操作	87
Mainメニュー	91
Advancedメニュー	95
Powerメニュー	97
Bootメニュー	99
Exitメニュー	100
BIOSセットアップユーティリティの終了	90

C

CapsLock	46
CD-ROM	58
CD-ROMイジェクトホール	9
CD-ROMイジェクトボタン	9
CD-ROMドライブ	9
~の不具合	115
CD-INコネクタ	144
CMOS RAM	89
CMOS RAMの初期化	127
COAラベル	2
CPU	4

D

DFPコネクタ	74
DIMM (メモリ)	73
~の不具合	117

F

FAT16ファルシステム	19
FAT32ファルシステム	19
FD (フロッピーディスク)	51
FDD (フロッピーディスクドライブ)	51
~の不具合	113
FDDアクセスランプ	9
FDDイジェクトボタン	9
FDISKコマンド	137
FORMATコマンド	143

H

HDD (ハードディスクドライブ)	56
~領域の変更	136
~の不具合	114
HDDアクセスランプ	9

M

MIDIコネクタ	10
MS-DOS領域のフォーマット	143
MS-IME	47

N

NumLock	46
---------------	----

P

Passwordの設定	93
-------------------	----

S

Safeモード	111
Scroll Lock	46
Service Pack6aのインストール	36
Supervisor Password	93

U

USBコネクタ	73
User Password	93

V

VGAコネクタ	10
VGAモード	111
Virus Scan for Windows	74

W

WindowsMe	(7)
~のセットアップ	21
~起動ディスクの作成	23
Windows98	(7)
~のセットアップ	24
~起動ディスクの作成	27
Windows2000	(7)
~のセットアップ	28
~セットアップブートディスクの作成	31
WindowsNT4.0	(7)
~のセットアップ	33
~ネットワークドライバのインストール	35
~Service Pack6aのインストール	36
Windowsキー	46

50音順

あ

アイコン	(8)
------------	-----

う

ウィルス	74
------------	----

お

お手入れ	122
------------	-----

か

解像度の変更	60
拡張カードの装着	80
拡張スロットの仕様	80
拡張MS-DOS領域	136

き

キーボード	46
~の接続	11
~の不具合	109
キーボードコネクタ	10
キーロック表示ランプ	46
起動方法	138
機能キー	46
機能仕様一覧	149
休止状態	68
強制取り出し (CD-ROM)	59

く

クリック	50
------------	----

け

警告メッセージ	119
ゲームポート/MIDIコネクタ	10

こ

コネクタ仕様	146
コンピュータウィルス	74
コンピュータ本体の不具合	106

さ

サウンド機能	72
--------------	----

し

シリアルコネクタ	73
仕様	149
省電力機能	68
～に関する不具合	108

す

数値キー	46
スーパーバイザーパスワード	93
スクロール	50
スタンバイ	68
スピーカの不具合	118

せ

セットアップ	15
WindowsMeインストールモデル	21
Windows98インストールモデル	24
Windows2000インストールモデル	28
WindowsNT4.0インストールモデル	33
セットアップブートディスクの作成	31

た

大容量ディスクサポート	138
タスクバー	(8)
タブ	(8)
ダブルクリック	50

て

ディスプレイ	60
～の接続	11
～の不具合	111
デスクトップ	(8)
電源コードの接続	11
電源コネクタ	10
電源スイッチ	9
電源の入れ方	15
電源の切り方	40
電源ランプ表示	68
添付ソフトウェア	5

と

ドラッグアンドドロップ	50
-------------------	----

に

日本語入力システム	46
入力キー	46

ね

ネットワーク	
～機能	72
～ドライバのインストール	35
～に接続する	72
ネットワークコネクタ	10

は

ハードディスクドライブ (HDD)	56
～領域の変更	137
～の不具合	114
パスワード	93
Supervisor Password	93
User Password	93
パネルコネクタ	144
パラレルコネクタ	73

ハングアップ	43
バックアップディスクの作成	38

ひ

表示色の変更	60
--------------	----

ふ

プリンタの不具合	118
フロッピーディスクドライブ (FDD)	51
フロッピーディスク (FD)	51

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	9
--------------------	---

ほ

ボタン	(8)
ボリューム	9
本体カバー	78
~の取り外し	78
~の取り付け	79
本体内部ケーブル	144

ま

マイク入力コネクタ	10
マウス	50
~ドライバのインストール	134
~のお手入れ	122
~の接続	11
~の不具合	110

め

メモリ (DIMM) の不具合	117
-----------------------	-----

ゆ

ユーザーパスワード	93
ユーティリティCD-ROM	129

ら

ライトプロテクト (FD)	54
ライン出力コネクタ	10
ライン入力コネクタ	10

り

リカバリCD-ROM	129
リセット	43
リチウム電池の交換	124

ろ

論理MS-DOSドライブ	136
--------------------	-----



ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点 ございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。が、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Celeron は Intel Corporation の商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

エプソン販売 株式会社



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
再生紙を使用しています。

C77126001 01.01-15.20(SO)